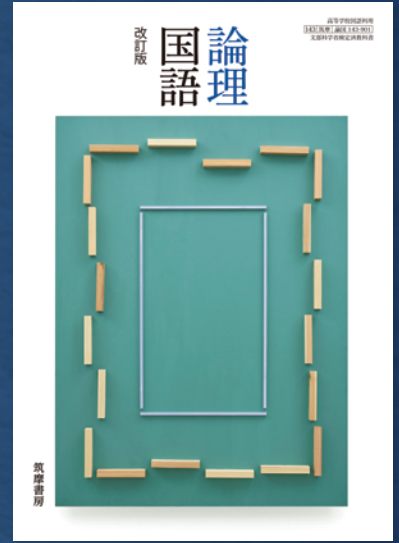


「論理国語 改訂版」「文学国語 改訂版」
「古典探究 改訂版」の内容は、
こちらのパンフレットにまとめました。

筑摩書房版

国語教科書



論国 143-901 論理国語 改訂版



古探 143-901 古典探究 古文編 改訂版



古探 143-902 古典探究 漢文編 改訂版



文国 143-901 文学国語 改訂版

- 目次
- ◎ 筑摩書房の国語教科書 2
 - ◎ 『論理国語 改訂版』のご案内 4
 - ◎ 『文学国語 改訂版』のご案内 28
 - ◎ 『古典探究 改訂版』のご案内 48
 - ◎ 入試出題状況一覧 76
 - ◎ 指導資料一覧・周辺教材 78

内容解説資料
令和九年度用
27

筑摩書房の国語教科書

編集委員のことば



東京大学名誉教授 安藤 宏

二〇一八年に改訂された学習指導要領で、必修履修科目は「現代の国語」と「言語文化」に、選択科目は「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」に分けられました。このうち評論や実用文を扱うとされた「論理国語」と、小説などの文学教材を扱うとされた「文学国語」の両方を履修するのは難しく、どちらか一方だけ選択することになった生徒も少なくないのではないだろうか。両方を履修することができるよう苦慮している学校もあることであろう。

現在、情報化社会の中で「実用国語」化への動きが急速に進んでおり、今回の指導要領

はあきらかにこうした流れに沿って作成されています。世にある文章を「論理」「実用」「文学」の三つに区分して科目に分けるといふ発想も、まさしくこれに深く関連する動きと言えるでしょう。

しかしわれわれ筑摩書房の編集委員会は、「役に立つ」という概念をもっと根本的な所から捉え直したいと考えています。世界の成り立ちを根源から問い返し、異質な世界や他者への想像力を育んでいく「人文知」は「国語」という教科の礎をなすものです。こうした発想に立ち、「論理国語」においても「文学国語」においても、「人文知」を中心にすえて編

集され、これまで培われた理念とあらたな時代への要請とが、高い次元でミックスされるよう、意を尽くしました。情報化社会の中でこそ、功利的なものの方に惑わされることなく、これを批判的に相対化していく力が求められるわけで、われわれは教材の選定や編集に当たって、まず何よりもこうした奥深い知性を養成していくことを目標に掲げました。これからの国語教育に向けて、われわれの教科書とともに考え、歩んでいただければ幸いです。

学習指導要領と筑摩書房の教科書

①すべての教科において「主体的・対話的で深い学び」が求められています。

【筑摩書房の教科書では】

- ・生徒の主体性を引き出し、知的好奇心を刺激する教材を厳選しました。
- ・「学習の手引き」には、生徒の主体性を引き出したり、対話によって考えを深めたりすることができる課題を配しました。
- ・単元ごとに「実践」を設け、主体的・対話的で深い学びを導く工夫を示しています。
- ・さまざまな角度からの比べ読み教材を掲載して、深い学びへと誘います。

②「思考力・判断力・表現力等」と「知識・技能」から成る「資質・能力」の育成が求められています。

【筑摩書房の教科書では】

- ・収録された教材と、学習指導要領に示された「思考力・判断力・表現力」および「知識・技能」の項目との関係が一目でわかる一覧表を掲載しました。
- ・すべての単元に扉を設け、それぞれの単元で、どのような「資質・能力」を身につけたいかを示す「単元の目標」を掲示しました。
- ・各教材の冒頭に「視点」を設け、教材のどのような点に着目して学びたいかを示しました。

「この教科書で育成する資質・能力」

資質・能力	思考力・判断力・表現力等	知識・技能	言語文化
思考力・判断力・表現力等	○「読むこと」「書くこと」の2領域	○「読むこと」「書くこと」の2領域	○「読むこと」「書くこと」の2領域
知識・技能	○「読むこと」「書くこと」の2領域	○「読むこと」「書くこと」の2領域	○「読むこと」「書くこと」の2領域
言語文化	○「読むこと」「書くこと」の2領域	○「読むこと」「書くこと」の2領域	○「読むこと」「書くこと」の2領域

	1年次	2・3年次
現代の国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を育成する」科目。 ○「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域。 ○「読むこと」の教材は「現代の社会生活に必要なとされる論理的な文章および実用的な文章」。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主として「思考力・判断力・表現力等」の感性・情緒の側面力を育成する。深く共感したり豊かに想像したりして、書いたり読んだりする資質・能力の育成を重視した選択科目。
言語文化	<ul style="list-style-type: none"> ○「上代から近現代に受け継がれてきた我が国の言語文化への理解を深める」科目。 ○「書くこと」「読むこと」の2領域。 ○「読むこと」の教材は「古文」「漢文」および小説・詩歌などの「近代以降の我が国の伝統と文化に関する文章」。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主として「伝統的な言語文化に関する理解」をより深めるため、ジャンルとしての古典を学習対象とする。古典を主体的に読み深めることを通して伝統と文化の基盤としての古典の重要性を理解し、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する資質・能力の育成を重視した選択科目。 ○「読むこと」1領域。
古典探究	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」1領域。 ○教材は主として古典としての古文及び漢文。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材は「近代以降の文学的な文章」。
文学国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」「読むこと」の2領域。 ○「読むこと」の教材は「近代以降の文学的な文章」。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「読むこと」の教材は「近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要なとされる実用的な文章」。
論理国語	<ul style="list-style-type: none"> ○「書くこと」「読むこと」の2領域。 ○「読むこと」の教材は「近代以降の論理的な文章及び現代の社会生活に必要なとされる実用的な文章」。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主として「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面力を育成する。実社会において必要となる、論理的に書いたり批判的に読んだりする資質・能力の育成を重視した選択科目。 ○「書くこと」「読むこと」の2領域。

※このほか「国語表現」（他者とのコミュニケーションの側面力を育成する科目として、実社会において必要となる、他者との多様な関わりの中で伝え合う資質・能力の育成を重視して新設した選択科目）があります。

論理国語

改訂版

重厚な定番教材から、最新のテーマや注目の著者による精選した評論をそろえ、難関大学の入試にも対応する「論理国語」の最高峰。

論国 143-901 / A5判・448頁

編集委員のことば

私たちは、子どものころから、感想を述べよとか、意見を出しなさいとか、くりかえし指示されてきました。しかし、ぼつりぼつりとうまくとばを絞り出すと、もつと分かりやすくとか、明確にとか注文をつけられたいります。大人になると、もつとそういう場面が増えてきます。ある商品について、それがいかに素晴らしく、美容と健康によくて、地球に配慮して作られているかとか、このプロジェクトを実現するといかに人類に貢献し、持続可能な社会を生み出せるかを説明してたくさん予算を獲得するとか、そういう説得の

戦術に大人は頭を悩ましています。

そのとき効果を発揮するのが、論理とレトリックです。とりわけ論理的なことばを繰り出すことを目指したい。でも、ほんとうに完ぺきな論理というのはありうるのでしょうか。ことばは論理的にはなることができて、純粹な論理そのものにはなれません。議論で相手を徹底して打ち負かすと、負けた側には不快な感情のしこりが残ります。では、どうしたら社会で役に立つ「論理国語」ができあがるのでしょうか。それにはまず相手に納得してもらおうことばの使い方を学



日本大学名誉教授 紅野謙介

ぶことです。そのためには相手がどのような人なのか、どのような思いを抱いているかを想像することが必要です。他人ですから、真に分かることはむずかしい。ことばを繰り出し、相手のことばや反応を引き出すことによって、少しずつ違いが分かるようになればうれしい。「論理国語」はこうして最終的には対話のことばに向かいます。書き手と読み手が、話し手と聞き手がその役割を交互に切り替えながら、さまざまな観点から人間を、社会や自然をどうとらえ、どのように生きていくかを対話していくのです。

編集のポイント

◎論理的な思考を学ぶとともに、ことばと人間の本質を深く探究する文章を豊富に採録。

◎大学入試にも対応する鋭い視点や抽象度の高い思考を身につける、質・量ともに最高峰の評論をそろえました。

教材の特徴

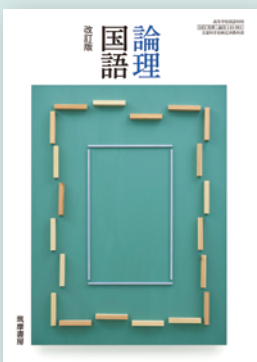
- ①第一部9単元27教材、第二部8単元23教材と充実のラインナップ。
- ②原則として各単元内の教材配列は易↓難へ。
- ③長く読み継がれる名評論から、最新のテーマ、話題の著者、近代の評論など、筆者・時代・テーマすべてにわたってバラエティ豊かな教材。
- ④教室や生徒によつてさまざまな資質・能力を引き出せる奥の深い教材を厳選。

授業を支える工夫

- ①「第一部」「第二部」の冒頭に学びの見通しを立てるために役立つ「単元の目標」と教材ごとの「視点」を提示。
- ②教材ごとに学びの目標を明確化する「課題」と、理解を深める「構成」「読解」、主体的な学びを支える「言語活動」を提示。
- ③主體的な学びを支える「実践」を適宜掲載。
- ④「論理的思考」を身につけ、「文学的な教材」との連携も可能なコラムを適宜掲載。
- ⑥「言語活動」で小説などとの関連付けを適宜提示。

論理国語 改訂版 編集委員

安藤 宏	東京大学名誉教授
門屋 敦	東大寺学園中・高等学校教諭
紅野謙介	日本大学名誉教授
河野龍也	東京大学准教授
五味淵典嗣	早稲田大学教授
清水良典	文芸評論家・愛知淑徳大学名誉教授
関口隆一	筑波大学附属駒場中・高等学校教諭
橘 直弥	灘中学校・高等学校教諭
中谷いづみ	二松学舎大学教授
服部徹也	東洋大学准教授
松田顕子	立教新座中学校・高等学校教諭
森 大徳	筑波大学附属駒場中・高等学校教諭
吉田 光	郁文館中学校・高等学校教諭



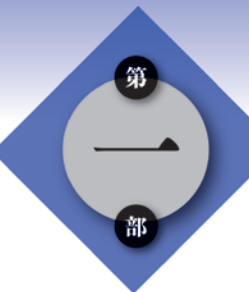
論理国語

改訂版

目次

◎教材数は第一部9単元27本。
◎基本的に章ごとの教材は、易↓難へ。
◎「書くこと」「読むこと」のアイコンで、どの領域の「資質・能力」を養うのに適した教材かが一目瞭然。

第一部 目次



評論と小説を有機的に結びつけるコラムを入れました。小説との比べ読みに導けます。

「論理的思考」を身につけるにあたって必要な知識をまとめたコラム。

平和教材としても必読。

実用文、レポート、資料の読解など、主体的な学びに必要な知識と手順を「実践」で解説。

ジェンダー、環境問題、格差などの現代的なテーマから、近代論、言語論、社会論など定番の評論まで幅広く網羅。

第1章 未来をつくる言葉	ドミニク・チェン	12	自己と他者	17
◆「羅針盤1」比べて読もう	中島敦「山月記」が描く「わかりあえなさ」	18	テクスト	26
◆物語るといふ欲望	内田 樹	19	超越性	33
◆科学の詩学へ	石井美保	27	近代	42
◆「評論入門1」		34	前提と推論	50
◆「象徴的貧困」に立ち向かうために	石田英敬	51	メディア	57
◆「評論入門2」		58	仮説と検証	68
◆「一〇〇パーセントは正しくない科学」	更科 功	60	近代的主体	76
◆近代の成立——遠近法	橋爪大三郎	69	共生	83
◆カイロモン	三浦哲哉	77	自立/依存	92
◆「多様な文章に触れよう——法令文・新聞記事」		84	オーラルヒストリー	101
◆「迷惑ていびつな生命」	中屋敷均	86	フェミニズム	109
◆「沖繩戦を聞く」	岸 政彦	93	ジェンダー	119
◆「変貌する聖女」	川島慶子	102		
◆「男の絆、女たちの沈黙」	尹 雄大	110		
◆「現代日本の開化」	夏目漱石	120	日本と近代	126
◆「物語りについて」	濱口竜介	127	語りの場	134
◆「【羅針盤2】比べて読もう」	夏目漱石「こころ」の「語り」	135		
◆「ファンタジー・ワールドの誕生」	今福龍太	136	ツーリズム	144
◆「生物の作る環境」	日高敏隆	145	環世界	151
◆「貧困は自己責任なのか」	湯浅 誠	152	格差社会	157
◆「ポピュリズムとは何か」	森本あんり	158	分断	164
◆「トリアージ社会」	船木 亨	165	生権力	172
◆「権力とは何か」	杉田 敦	173	ナシヨナリズム	180
◆「【実践2】レポートを書くこう書こう」		181		
◆「生成AIとの付き合い方」		183		
◆「子どもの言語習得」	今井むつみ・秋田喜美	184	類推(アナロジー)	192
◆「ファッションの現象学」	河野哲也	193	差異	200
◆「日本の社会は農業社会か」	網野善彦	201	イデオロギー	208
◆「【実践3】資料や情報を吟味して、自分の考えにつなげよう」		209		
◆「【参考】デジタル化される世界」	オリヴァー・レイ/池畑奈央子 訳	211		
◆「データの読み方」		215		
◆「資源はなぜ枯渇するのか」	細田衛士	216	持続可能性	222
◆「ビッグデータ時代の「生」の技法」	柴田邦臣	223	公共圏と親密圏	230
◆「【てある】ことと【する】こと」	丸山眞男	231	法と制度	244

キーワード

キーワード

教材に関連した評論キーワードとその解説が、すべての教材に示してあります。

教科書に掲載している二次元コードから比べ読みのテキストにアクセスできます。「未来をつくる言葉」(「山月記」)、「現代日本の開化」(「こころ」)、「【羅針盤2】」(「夢十夜」)、「物語としての自己」(「舞姫」)、「清光館哀史」(「陰翳礼讃」)がそれぞれリンクしています。

第一部

目次



第1章 多様性のほうへ

- 単元の目標……………246
- 「自然を守る」ということ 森岡正博……………248
- 物語としての自己 野口裕二……………255
- 〔羅針盤 3〕比べて読もう 森岡外「舞姫」が語る「自己」……………263
- 虚ろなまなざし 岡 真理……………264

- 実践① 複数の文章を読み比べてみよう……………272
- 物語と歴史のあいだ 野家啓一……………274

第2章 語りと世界

書

- 清光館哀史 柳田國男……………281
- 自分自身を語るために 三木那由他……………292

- 実践② 自分の経験や考えを効果的に書いてみよう……………301
- 絵画は紙幣に憧れる 榎木野衣……………304

第3章 抽象から具象へ

新

- 真実の百面相 大森荘蔵……………311
- 貨幣共同体 岩井克人……………319
- ビジンという生き方 管啓次郎……………328
- 聞く者たちの文学、忘却に抗するための会話 瀬尾夏美……………335
- （参考）戦争は女の顔をしていない スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ／三浦みどり訳……………345

第4章 響き合うことばと身体

新

- トラウマ……………344
- 共同体……………334
- 共同性……………327
- 主観／客観……………318
- 価値……………310

- 模倣と「なぞり」 尼ヶ崎彬……………348
- ラムネ氏のこと 坂口安吾……………356
- 難民が問題になるとき 伊豫谷登士翁……………364
- 思考の誕生 蓮實重彦……………372
- 主義は広大なるべき事 福沢諭吉……………378
- 異時代人の目 若桑みどり……………383
- 巫女の視点 大澤真幸……………389
- ものごと、木村 敏……………398
- 「病氣」の向こう側 田中祐理子……………407
- 過剰性と稀少性 佐伯啓思……………418
- 記憶の満天 西谷 修……………428
- 戦争と平和についての観察 中井久夫……………436
- 実践③ 論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう……………446
- 読書案内……………447

第5章 「当たり前」を疑う

定番

- 身体……………355
- 翻訳……………363
- グローバリゼーション……………371
- 対話……………377
- 「漢文」の近代……………382
- バイアス……………388
- 構造……………397
- 対象化……………406
- パラダイムシフト……………417
- 資本……………427
- パースペクティブ……………435
- 批判……………445

第6章 「近代」を再考する

読む

- 「近現代」の近代……………382
- 「漢文」の近代……………382
- 対話……………377
- 「漢文」の近代……………382
- バイアス……………388
- 構造……………397
- 対象化……………406
- パラダイムシフト……………417
- 資本……………427
- パースペクティブ……………435
- 批判……………445

第7章 記号がつくる世界

読む

- 「漢文」の近代……………382
- 対話……………377
- 「漢文」の近代……………382
- バイアス……………388
- 構造……………397
- 対象化……………406
- パラダイムシフト……………417
- 資本……………427
- パースペクティブ……………435
- 批判……………445

第8章 よみがえる問い

書

- 「漢文」の近代……………382
- 対話……………377
- 「漢文」の近代……………382
- バイアス……………388
- 構造……………397
- 対象化……………406
- パラダイムシフト……………417
- 資本……………427
- パースペクティブ……………435
- 批判……………445

キーワード

実践④ 論文を読んで、これまで行われてきた研究をまとめよう……………446

読書案内……………447

大学入試にも対応した歯ごたえのある評論群。

比べ読み、自己PR、論文の読解など、主体的な学びに必要な知識と手順を「実践」で解説。

ノーベル文学賞受賞作品の翻訳や、原文で読む近代の評論など、バラエティ豊かな教材。

移民・難民問題、ウィルスなどの感染症がもたらす社会の変化など現代的なテーマから、哲学的な問いや平和論など定番の評論まで幅広く網羅。

第1章



未来をつくる言葉 **ドミニク・チェン**
「わかりあえなさ」をつなぐという、ことばとの新たな向きあい方について、筆者の主張を基に思考を深められる教材。SNSなどのインターネットツールが進化し、表現とコミュニケーションとの関係が複雑化する現代においてこそ、ことばのもつ「架橋」の力を実感したい。

物語るといふ欲望 **内田樹**
物話論《テキスト》3300字
私たちはなぜ「物語る」のか。「解釈したい」という欲望はなぜ生まれるのか。人間の根源的な欲求の仕組みを、筆者一流の逆説を用いて鮮やかに解き明かすスリリングな評論教材。



科学の詩学へ **石井美保**
科学論《超越性》2800字
「見対立する」「科学」と「詩学」。しかしその二つは、深いところで結びついていく。すぐれた研究者たちであり文章家であった中谷宇吉郎や寺田寅彦を例に、探究することの喜びを語る。文系・理系への進路を考える前に読みたい。



地図の想像力 **若林幹夫**
情報論《近代》3500字
中世と近代の地図の比較によって「科学的」であることが「進んでいる」という考え方を反転させ、西洋中心主義が「当たり前前」になっている現代人の思考を問い直す。



本当は怖い「前提」の話 **川添愛**
論理学《前提と推論》3200字
「前提」の「怖さ」とは一体何か。言語学の知見を通して、何げなく使われる「前提」という概念を捉えなおす。



「象徴的貧困」に立ち向かうために **石田英敏**
メディア論《メディア》3200字
わたしたちの身近にあふれるさまざまなメディア。それは、わたしたちの想像力を豊かにしているだろうか。ジョン・レノンとオノ・ヨーコの「イマジジン」が立てた問いに向き合う。

第3章



100%は正しくない科学 **更科功**
論理学《仮説と検証》4400字
科学的推論は決して「100%」の正しさには到達できない。それは、「演繹」ではなく「推測」によって未知の真理に迫ろうとする科学の本質ゆえなのだ。科学と、その営みを支える論理的思考の基礎をわかりやすく解説する。



近代の成立——遠近法 **橋爪大三郎**
近代論《近代的主体》2700字
「遠近法」は単なる絵画の技法ではない。美術の授業で必ず習う身近なテーマを通して、「近代」の特性を簡潔明快に解き明かす。



カイロモン **三浦哲哉**
環境論《共生》3500字
生物にとって「におい」にはどのような意味があるのか。日常生活の中ではほとんど意識していない情報や行動について問い直し、多様性が環境を保つ秘密に迫る。

第4章



迷惑でいびつな生命 **中屋敷均**
生物学《自立/依存》3300字
「迷惑をかけないようにしよう」という毎日は、はたして本当に豊かな関係を作り出しているのだろうか。生物学の知見から、人間社会を捉え直す。



沖繩戦を聞く **岸政彦**
社会学《オーラル・ヒストリー》3200字
「聞く」力とはどのようなものか。沖繩の人々のことばに耳を傾け、その語りを書き記し続けた筆者の文章を通じて、「聞くこと」と「書くこと」との密接なつながりを実感する。



変貌する聖女 **川島慶子**
ジェンダー論《フェミニズム》3800字
キュリー夫人の伝記がそれぞれの時代の社会的な要請や女性観の変遷の中心でいかに書き換えられてきたのか。「あたり前」を問うことの驚きを味わえる評論。

第5章



男の絆、女たちの沈黙 **尹雄大**
ジェンダー論《ジェンダー》4900字
男性の書き手によるジェンダー論。固定的な物の見方が固定的な関係を作る。その事実をどのように乗り越えるか、問題提起する。



現代日本の開化 **夏目漱石**
近代論《日本と近代》3600字
明治を代表する知識人は、自らの生きた時代をどう見ていたか。聴衆を前にした講演ならではのレトリックにも注目したい。



物語りに対して **濱口竜介**
物話論《語り場の場》3600字
不条理な現実と直面したとき、人間はどのように語るのか。それを、私たちはどのように受けとめるべきか。フィクションが現実を捉える力を学びたい。

第6章



ファンタジー・ワールドの誕生 **今福隆太**
文化人類学《ツリーズム》4000字
「観光」という行為に秘められた、グロテスクな権力の形とは。差別を強化し、再生産する仕組みを身近な題材を例に暴き出す、グローバル時代に必読の教材。



生物の作る環境 **日高敏隆**
生物学《環世界》2600字
世界とはそれぞれの生物が持つ感覚器官と行動原理を通じて立ち現れるものであり、ダニとヒトとでは、「世界」の形は全く異なる。所与のものを自明視せず、世界の別のありようを想像する力を養うために。



貧困は自己責任なのか **湯浅誠**
貧困論《格差社会》2500字
「貧困」の定義とは何か。引用の中の語句を解釈しながら自説を組み立てる論法にも留意したい。



ポピュリズムとは何か **森本あなり**
政治思想論《分断》3200字
現代の民主主義において最も注目されていることばの一つである「ポピュリズム」。その概念と特徴や構造を捉える。



トリアージ社会 **船木亨**
社会学《生権力》3700字
最近とみに耳にする「トリアージ」。新しいことばが定着するとき、そのことばは社会情勢を映していると言えよう。ことばをきっかけに社会を考える。権力とは何か **杉田敦**



政治思想論《ナショナルリズム》3700字
権力は、人間を縛るだけでなく、人々の生を支え保証する積極的な側面もある。その作用と効果の二面性について論じる。



子どもの言語習得 **今井むつみ・秋田喜美**
言語論《類推(アナロジー)》3700字
子どもの言い間違いは、人類の知識の創造や進化の過程とも通じる。科学の本質を日常生活から見出し、いく論の運びを追いかけた。



ファッションの現象学 **河野哲也**
文化論《差異》3800字
「変化のための変化」であることにより秩序を翻弄する遊戯であると同時に、新たな自己を創出してよりよく生きるための試みでもある。奥深い表面IIファッションの謎に迫る、重厚な文化論。



日本の社会は農業社会か **網野善彦**
歴史論《イデオロギー》3600字
新たな資料との出会いによって、積年の思い込みの呪縛が解かれることもある。歴史を見直す面白さがそこにある。

第9章



資源はなぜ枯渇するのか **細田衛士**
環境論《持続可能性》3200字
環境問題を学ぶ上で知っておきたい「 commons」の悲劇。しかし突き詰めて考えれば「悲劇」の本質は「commons」ではない。具体例を挙げながら、議論を深めていく道筋をたどりたい。



ビッグデータ時代の「生」の技法 **柴田邦臣**
テクノロジー論《公共圏と親密圏》3500字
情報技術の進展は人間の「生」をどう変えるか。体験と知識が結びついた思考の展開をたどる。



「である」ことと「する」こと **丸山眞男**
政治思想論《法と制度》3300字
現代日本においてなお、喫緊の課題であり続けている二つの論理・価値。戦後政治学の牽引車による定番評論。

第1章



「自然を守る」ということ 森岡正博

「人間」と「自然」は対立項ではなく、実際には互いに深く結びついているのではない。新たな気づきによって、従来の環境倫理学の枠を越えた提言を行う自然環境論二項対立と、その脱構築の仕方を学ぶ意味でも意義ある文章。



物語としての自己 野口裕一

私たちの「自己」が形作られる仕組みを、「物語行為」という観点から解説した、新鮮なアイデンティティ論。「語る」ことと「生きる」ことの密接なつながりを認識させる。



虚ろなまなざし 岡真理

声なき被害者の苦しみを、被害者になり代わって想像し、代弁しようとするとき、私たちが忘れてしまうものは何か。ヒューマンズを謳う私たちの行動に隠された暴力性をあらわにし、無責任・無慮な義憤に駆られて行動することの危険性に気づかされる文章。

第2章



物語と歴史のあいだ 野家啓一

ふつう「歴史」は社会や国家の共有物であり、個人の「記憶」「思い出」とは別個のものとして意識される。しかし、筆者はそれらを連続的なものと捉える。「歴史」に対するイメージを描きつづる文章。



清光館哀史 柳田國男

民俗学の大家、柳田國男は、旅の中で何を感じ、「記憶」をどのように「記録」したのか。新聞に掲載された文章を教材化した、筑摩書房伝統の定番教材。



自分自身を語るために 三木那由他

「私はこう思う。」「私はこう感じている。」「そんなことは尊重されない場面がある。コミュニケーションの背後にある「権力の不均衡」を指摘する評論。

第3章



絵画は紙幣に憧れる 榎木野衣

「社会」の中で価値がどのように創出されていくか、筆者は「絵画」と「紙幣」の比喩的な関係を明らかにしながら、近代芸術の特質を考察する。模倣とオリジナリティという観点から、美術に限らず文学作品まで広く、価値の創出について考えを深められる教材。



真実の百面相 大森荘蔵

私たちは物事にはたった一つの「真実」があると考えがちだ。しかし本当にそうなのだろうか。私たちの認識を根幹から揺さぶる哲学者の濃厚な評論。



貨幣共同体 岩井克人

貨幣で商品を買うということは、実はとても不安定で不可思議な現象ではないか。貨幣で成り立つ社会の根源をあぶり出す。

第4章



ピジンという生き方 菅啓次郎

島という閉ざされた空間は多言語が出会う場である。筆者のハワイでの経験や言語に関する考えを綴った、詩的な表現が美しい評論。



聞く者たちの文学、忘却に抗するための会話 瀬尾夏美

傷を負った人々のことは、聞く人を得て初めて語られる。聞くことの難しさや豊かさを指摘した文章。参考資料のアレクシエービッチ「戦争は女の顔をしていない」とともに読み解きたい。



模倣と「なぞり」 尼ヶ崎彬

日本の芸事における習得のあり方を題材に、意識と身体とのつながりについて日本人はどのように捉え、実践してきたかを考察した文章。

第5章



ラムネ氏のこと 坂口安吾

当然のように存在する事象の背後には、何かに徹することに生涯を捧げた名も知れぬ先人がいるはずだという事実を指摘し、人が生きることの意味を讀者に淡々と問ひかける。今このように世界があることと人が生きることとの関係について、文学者の眼差しを通して深く考えさせられる名教材。



難民が問題になるとき 伊豫谷登士翁

現代社会を論じる際に避けては通れないテーマ「移民・難民」を、国際社会の歴史的な変化など、広い視座から論じる。



思考の誕生 蓮見重彦

当代きっての舌鋒の鋭さで知られる文芸・映画評論家による、アイロニーに満ちた思想論。自明視されることに揺さぶりをかける論理を味わいたい。

第6章



主義は広大なるべきこと 福沢諭吉

分断・対立の無用を明晰な文章で説いた、明治を代表する啓蒙思想家の新聞論説文。漢文訓読体に慣れ、その明快さを味わいたい。



異時代人の目 若菜みどり

歴史学の役割とは、過去という膨大な時間の堆積を「異時代人の目」を以て整理し、埋没してしまった「真理」を照らし出すこと——人間の「知性」への希望と、次世代への痛切な責任を語った教材。



巫女の視点 大澤真幸

社会の構造は、目に見えないところにある。「遠野物語」に描かれた「巫女」の視線を現代社会に投げ、社会の構造を見通すよう促す評論。

第7章



ものごと、木村敏

世界は「もの」として見るか、「こと」として見るか。認識論であり言語論であり、詩論でもある、極めて射程の広い評論。



「病氣」の向こう側 田中祐理子

コロナ禍はすでに過去のこととなったのか。今まさに私たちの生命に関する認識が更新されているさなかで読み解きたい医学評論。



過剰性と過少性 佐伯啓思

資本主義はどのような原理で人に経済成長を強制するのか。貨幣と欲望の考察を通して思考力を鍛えたい。

第8章



記憶の満天 西谷修

星空に映るのは《現在》ではなく《過去》であり、《空間》ではなく《時間》である。星空を見るとき、私たちはいったい何を《見て》いるのか、いま私たちに何が《見えて》いるのか、哲学的な思考を誘う。



戦争と平和についての観察 中井久夫

人はいつ、どのように戦争に直面するのか。冷静な観察を通して「戦争」と「平和」について考察する、教科書末尾にふさわしい重要な問題提起。

◎単元の目標

生徒一人一人が単元のねらいを理解することで、主体的に目的をもって学べるよう、単元ごとに「単元の目標」を示しています。

単元の目標

この教科書は、それぞれの章に次のような学習目標があります。学習目標に注意して、見通しを持って学びましょう。

第1章

架橋することば



▼目標：人と世界を結ぶことばの働きを理解する

私たちはことばを用いて対象を認識し、互いの気持ちを伝え合う。さまざまな形でことばは私たちを新たな世界に結びつけてくれる。しかし、ことばを用いれば簡単に自分の心を相手に伝えられるとは限らない。むしろ伝わらないことのほうが多いのではないか。わかり合えないかもしれないということ的前提に、人と人をつなぐ新しい方法を考えよう。

第2章

日常を見直す



▼目標：身近な物事を分析し、日常を見直す力をつける

私たちは身近な物事を当たり前のものとして受け入れ、日々それらの存在を自明のものとして扱っている。身近な事例の前提や起源をあらためて問うことで、その構造や情報が与える影響を可視化して、物事を見直してみよう。

第3章

個に向き合う



▼目標：個のあり方を、全体との相互関係の中で捉える

個々の人間の生き方や経験は、それ単独で成立するものではなく、社会全体の歴史や価値観、あるいは世界そのものの成り立ちと深く結びついている。個のあり方を、全体との相互関係の中で捉え、論じる視点を学ぼう。

第4章

枠組みを問う



▼目標：枠組みを捉え直し、新たな視座を得る

物事を捉えたり行動したりする際に、私たちは一定の枠組みを用いている。それは、共通理解を生み出すことに役立つという反面、物事の捉え方を固定化してしまう。枠組みの働きについて確認した上で、枠組みを外したり、そこからこぼれ落ちた点に目を向けたりすることで、新たな視座を手に入れよう。

第5章

関係を読む



▼目標：関係を通して人間を知る

人間は抽象的な存在ではない。それぞれ、言語・ジェンダー・年齢・家族・社会環境によって多様な存在である。違いのある人間同士の中で人は成長する。関係を読むことは、人と人の「間」、すなわち人間を知ることにつながるのである。人と人、人と社会、人と世界の関係について考えてみよう。

第6章

世界を視る位置



▼目標：多面的な視点から文章を捉える

私たちはともすれば既知の見方に捕らわれ、偏った判断を下しがちだ。自分を無意識に縛っている考え方から自由になるためには、さまざまな対象に対して新しい概念や切り口を持つ文章に接することが大切だ。それらを読み解くことで新たな視点を生み出そう。

第7章

現代という課題



▼目標：日常に潜む問題を見つけ出す

第8章

〈私〉をひらくために



▼目標：視野を広げ、自身の考えを見直す

現代の課題は日常生活の中に潜んでいる。それらは当たり前前に存在しているからこそ見落とされがちである。問題の所在に気付くには、問題意識や知識が必要だ。その具体的方法を学び、自分の日常を見つめ直してみよう。

第9章

未来を築く



▼目標：過去を振り返って現在を捉え直し、未来への展望を開く

私たちが直面する問題の多くは、いま突然生じたものではない。したがってその歴史的な経緯や変遷を知ることと、問題点をより深く理解できるようになる。挙げられている多様な事例とその意味を整理して理解し、より良い将来に向けて自分の考えを深めていこう。

単元の目標

各単元の「目標」を第一部・第二部の冒頭に提示しました。単元ごとの学びの見通しに役立ちます。

資質・能力アイコン

各単元で主に身につけたい「資質・能力」を示すアイコンを章ごとにつけてあります。

……単元の目標

論理国語 改訂版 第一部……

『論理国語 改訂版』の冒頭は、現代を生きる私たちにとってますます切実になってきた「わかりあえなさ」との向き合い方について。「論理」と「文学」に分かれたれようとも、「国語」で第一に学ばべきは「ことば」の力と限界、そしてそこから生まれる希望である、という筑摩書房編集委員からのメッセージです。(第一部 第一章 架橋することば)

読む 第一章 架橋することば

未来をつくる言葉

ドミニク・チェン

幼い頃から、日常生活を「翻訳」が満たしていた。家庭や学校で飛び交う複数の言語間で、時には言葉で表現する喜びに打ち震え、時には口から言葉が出てこないもどかしさに身悶えすることもあった。

ある時から、言葉を吐くという何気ない些細なコミュニケーションのひとつひとつが翻訳行為なのだと思えるようになった。そこから、人の話を聞いたり、本を読んだりすることがさらに好きになった。誰が何語で話しているのか、内容そのものへの興味に加えて、当人が「何を翻訳しようとしているのか」というプロセスにも関心を持つようになったのだ。

ある人が任意の言語で話している時、その人は自分の体験を通じて感じたことを、相手の知っている言葉に「翻訳」して話している。同時に、その翻訳行為から常にこぼれ落ちる意味や情緒もある。その隙間をなんとか埋めようとする仕草に、翻訳する人に固有の面白さが現れる。

わたしが学んできた数多の言語は、自分や他者の感覚を表現し、相互に伝えようとする「翻訳」の技法だった。今日わたしたちが紐解くことのできる歴史には、過去の無数の人々が発見し、試行錯誤してきた翻訳の表現が織り込まれている。今、わたしたちがその知識と経験を何のために受け継ぐのかといえば、わたしは互いの「わかりあえなさをつなぐために」と答えたいと思う。異質な個人同士は、この情報社会でますますつながっていくだろう。そんな時代に生きる人間として抱く、ある種の危機感から生まれる考えかもしれない。

今日、インターネットを介して、わたしたちが見知らぬ他者と接触する機会はますます増えているが、そこでは新たな関係性が紡がれる可能性と、異なる価値観を持つ人間同士が分断される危険性の両方が見られる。しかし、この二つの動向は一見矛盾するようである、人間の社会が新しい言語を獲得するために通過する必要なステップを共に指し示している。

たとえば、今日のSNS上では、互いに「わかりあえない」集団と「わかりあえない」集団の区分がますます明確に浮き上がってきている。

この構図は、広く政治や政策のあらゆる話題で繰り返されてきたものだ。検索や閲覧の履歴データを基に、利用者の嗜好性を捕捉する情報技術によって、各人がそれぞれの価値観の皮膜に閉じ込められ、異なる価値観を許容できなくなる現象はフィルターバブル

視点を「ことば」から捉え、「わかりあえない」ことを前提に「ことば」を交わし、意思を伝達していくという考え方を学ぼう。

視点 身につけたい資質・能力について、学びの見通しをたてやすくするため、すべての教材の冒頭に掲載しています。

1 プロセス 過程。経過。手順。「英語」 process

2 「その隙間」とは何と何の間の隙間か。

脚問 文脈を理解する上でポイントとなる部分は簡潔な脚問を通して確認。

2 インターネット 複数のコンピューター・ネットワークを相互に接続したネットワーク。「英語」 internet
3 SNS インターネットを介して共同体を構築できるサービス。「英語」 social networking service 略。
4 フィルターバブル 「英語」 filter bubble

脚注 文章を理解する上で必要な情報を掲載。

〈些細〉〈情緒〉
〈試行錯誤〉〈獲得〉
〈嗜好性〉〈皮膜〉
*身悶えする
*紐解く

……未来をつくる言葉

ルと呼ばれる。スマートフォンが世界中に浸透し始めた二〇一〇年代初頭から世界中で続いているが、この議論は情報技術によって生み出されたものではない。情報技術は、人間の社会にもより存在する傾向を強化しているに過ぎない。わたしたちは自己の身体という原初のフィルターバブルを持って生まれてくるのだ。

それでも、「言語」の持つ力によって、世界を覆う多種多様さをつなぎとめ、それらの間を行き来することができる。複数の文化に包まれてきたわたしは、こどもの頃から今に至るまでそのような言葉に心を動かされてきたし、おそらく、これからも同じようにフィルターバブルを越境する術を探していくだろう。

結局のところ、世界を「わかりあえるもの」と「わかりあえないもの」で分けようとするところに無理が生じるのだ。そもそも、コミュニケーションとは、わかりあうためのものではなく、わかりあえなさを互いに受け止め、それでもなお共に在ることを受け容れるための技法である。「完全な翻訳」などというものが不可能であるのと同じように、わたしたちは互いを完全にわかりあうことなどできない。それでも、わかりあえなさをつなぐことによって、その結び目から新たな意味と価値が湧き出てくる。

現代の情報環境で、見知らぬ他者と共在感覚を得られる範囲は依然として狭いままだ。スマートフォンやPCのスクリーンの向こう側にも、自分と等しく生命的なプロセスを生きる同輩が存在しているのだという当たり前のことを、理性だけではなく身体にも訴

える「言語」が必要となる。

幸いにして、そのためのヒントは、この世界の歴史のなかに満ち溢れている。たとえば生物学的な子や親がいなかったとしても、わたしたちは自らの生のプロセスを託す相手を見つけながら生きている。友人や恋人、仕事仲間、もしくは師弟といった関係性のおかげで、わたしたちは共に在ると感じられる場をつくりあげる。

互いの一部をそれぞれの環世界に摂り込みつつ、時に「親」として、また別の時には「子」として関係することができると望みさえすれば、人は誰でも縁を結び、互いの「わかりあえなさ」を静かに共有するための場を設計できる。なぜなら、わたしたちは自分たちが使う「言葉」によって、自身の認識論を変えられるからだ。

差異を強調する「対話」以外にも、自他の境界を融かす「共話」を使うことによって、関係性の結び方を選ぶことができる。近代社会では、長らく対話こそが民主主義的で合理的な議論を牽引すると考えられてきたが、今日の社会はそのための合理性を十分に発揮できないことを露呈してしまっている。この状況に対して、人の合理的な認知能力を引き上げようという努力も必要かもしれない。だが、それよりもまずは異質な他者と自分を架橋するための心理的な土台を築くことが重要だと思う。

わたしはこれまで、表現とコミュニケーションの関係について考え続けながら、生きている人間同士のコミュニティ、生者と死者が交わるインタフェース、そして人と微生

5 スマートフォン 音声通話以外に、インターネット接続、カメラ撮影、動画や音楽の再生、ゲームなどができる高機能携帯端末。〔英語〕 smart-phone

6 PC 個人使用を目的とするコンピュータ。パソコン。パーソナルコンピュータ〔英語〕 Personal computer) の略。
7 スクリーン 映画・スライドなどを映して見るための白い幕。転じて、コンピュータの表示画面も意味する。〔英語〕 screen

8 環世界 生物が自己の感覚器を用いて知覚した、自分にとって意味のある情報で構築された世界認識。ドイツの生物学者ユクスキユルが提唱した。一四五ページ参照。

9 共話 話し手と聞き手が一体となり談話を進行させていく日本語特有の会話のこと。日本語教育学者・水谷信子が提唱した。
10 コミュニティ 共同体。〔英語〕 community
11 インタフェース 異なる種類のものを結びつけるときの共用部分。〔英語〕 interface

〔原初〕(露呈) (架橋)

重要語句

覚えておきたい熟語や成句・慣用句は見開きごとに整理しました。

読解

教材の理解に役立つポイントを、問いの形式で示しました。

構成

評論の構成を分かりやすく、問いの形で示しました。

課題

教材の冒頭の「視点」に対応して、各教材を通じて身につけたい課題を示しました。

主な著作

著者紹介の末尾には、より深く学びたい生徒のために、著者の代表的著作を紹介して、読書活動に配慮しました。



◆主な著作 『コモンズとしての日本近代文学』『電腦のレリギオ』など。

物をつなぐロボットを研究してきた。好奇心の赴くままに行ってきたことだが、あらためて振り返れば、家族、社会、自然環境との関係における分裂に抗うための方法を探ろうとしてきた。自分自身のなかにも吃音¹²という「わからなさ」が同居しているし、多言語間の翻訳だけではなく同じ言語の話者同士でも意思の疎通が図れない状況を、当事者として生きてきた。

いずれの関係性においても、固有の「わかりあえなさ」のパターンが生起するが、それは埋められるべき隙間ではなく、新しい意味が生じる余白である。このような空白を前にする時、わたしたちは言葉を失う。そして、すでに存在するカテゴリに当てはめて理解しようとする誘惑に駆られる。しかし、じっと耳を傾け、眼差しを向けていけば、そこから互いをつなげる未知の言葉が溢れてくる。わたしたちは目的の定まらない旅路を共に歩むための言語を紡いでいける。

12 吃音 発声時に第一音が出にくい、ある音を繰り返す、無音が続くなどの、話しことが滑らかに出不い発話障害。
13 カテゴリ 同じ性質のものに属する部門。領域。範疇。「英語」category

読と学習

「課題」を元にした語彙の重要性を学ぶ

筆者のいう「翻訳」とは、外国語を日本語に置き換えることではない。同じ言語で他者のことばの意味を探り、自分なりのことばに置き換えていくことも「翻訳」だ。しかも、その置き換えに完全な正解はない。人はわかり合えるはずという思い込みの枷をゆるめて、ずれや違いを前提とした新しいコミュニケーションの場を模索しよう。

ひとつが翻訳行為なのだと思えるようになった(二二・四)のはなぜか、説明しなさい。
2. 「人間の社会にもより存在する傾向(二四・三)とは何か、説明しなさい。
3. 「わかりあえなさ」を「共有する(二五・八)とはどのようなことか、説明しなさい。

言語活動

- 構成 1. 本文を三つの意味段落に分け、それぞれに小見出しをつけた上で、各段落の内容を要約しなさい。
- 読解 1. 「言葉を吐く」という何気ない些細なコミュニケーションのひとつ

自己と他者……「他者」は、自己とは別の人間・存在を定義するために使用される語である。一般に「他人」と言う場合は、ゆるやかに自分と連続しながらも異なる人間をさすのに対して、「他者」は言語や文化的背景、コミュニティを共有しない、第三者的な存在をさすときに使われることが多い。自己を際立たせるために他者が必要となる場合もある。また、自己の中に他者を見出だして困惑する場合もある。

重要漢字……

- 12 吐(吐息) 13 抱(介抱) 13 矛(矛盾) 13 閱(検閲) 13 履(履修) 13 捕(捕虜) 13 捉(把捉) 14 範(規範)
- 14 狭(狭小) 15 託(託児) 15 露(結露) 15 呈(贈呈) 15 微(軽微) 16 奇(奇怪) 16 裂(亀裂) 16 球(球遠)

重要漢字

本文中の常用漢字から、学ばべき漢字を選び、本文中の使われ方以外の熟語を示しました。

キーワード

教材に即した「キーワード」を示しました。

言語活動

教材を手掛かりにして、教室で実践できる「言語活動」を掲示しました。

学習の手引き

「課題」を元に、取り組みやすい「構成」「読解」「言語活動」を示しています。

◎ おすすめの教材 ②

論理学の手法を、子どもが言語を習得していく場面に応用した評論。論理学が決して机上の論理ではなく、むしろ私たちの生きる世界の解像度を上げるツールの一つであることに気づかされます。(第一部 第8章 〈私〉をひらくために)

読む 第8章 〈私〉をひらくために

子どもの言語習得

今井むつみ
秋田喜美

◆視点 不完全な言語経験から、驚くべきスピードで子どもが言語を獲得できるのはなぜか。知を創造する「推論」のプロセスを学ぼう。

第8章 〈私〉をひらくために……

論理学では、「推論」といえば演繹推論と帰納推論である。演繹推論は、ある命題(規則)が正しいと仮定し、またその事例が正しいときに、正しい結果を導く。よく見かける演繹推論の例にこのようなものがある。

演繹

①この袋の豆はすべて白い。(規則)

②これらの豆はこの袋の豆である。(事例)

③ゆえに、これらの豆は白い。(結果)

これも有名な演繹推論の例である。

①すべての人間は死ぬ。(規則)

②ソクラテスは人間である。(事例)

③ゆえに、ソクラテスは死ぬ。(結果)

10

5

◎ おすすめの教材 ③

「環境問題」はなぜ起きるのか。現代社会に生きる私たちが避けては通れない重要な問題を、具体例を挙げながら丁寧に解き明かす評論。かつちりとした評論の読み方が身につきます。(第一部 第9章 未来を築く)

読む 第9章 未来を築く

資源はなぜ枯渇するのか

細田衛士

◆視点 環境問題の核心はどこにあるか。二つの「悲劇」の比較を通して問題点を整理する論理の流れに注目しよう。

第9章 未来を築く……

環境問題の核心は、共有資源の適正利用の失敗であるとする考え方がある。この見方の典型的な例が、ギャレット・ハーディンの主張した「コモンズの悲劇」である。ここでコモンズとは共有資源ないし共有地のことをさす。コモンズの悲劇とは、おおむね次のようなことである。共有地では、人々は自己利益のみを考え、他の利用者のことは考えない。どの利用者も皆同じように利己的に行動するから、共有地を過剰に利用してしまい、その結果その土地は荒れ果ててしまう。たとえば共有の放牧地の場合、皆が家畜を過剰に放牧することによって、草がなくなり荒地と化す、というのだ。この考え方は、世間ではしばしば起きるように、ネーミングのうまさ³と発表したタイミングの良さ¹で非常に有名になった。

コモンズの悲劇は、一九六八年、先進国で公害が深刻化の一途をたどる時代に発表された。しかも、「サイエンス」という著名な科学専門誌に掲載されたため、多くの人々がこの考え方に共鳴した。確かに大気や広域水系はコモンズ(共有資源)である。大気

10

1 ギャレット・ハーディン Garrett Hardin 一九一五―二〇〇三年。アメリカの生態学者。
2 コモンズ 誰もが利用できる土地や資源。「英語」commons

1 「この考え方」とはどのような考え方か。

3 ネーミング 命名すること。「英語」naming

4 「サイエンス」アメリカ科学振興協会が発行する

「科学」と「詩学」は対立するものではない、ということを書き出す。理系か文系か、進路を選択する生徒たちに、「学問」そのものを俯瞰する姿勢を促します。(第一部 第一章 架橋することば)

科学の詩学へ

北海道に住んでいた学生時代、よくほうぼうの山に出かけた。なかでも印象に残っているのは大雪山系の十勝岳だ。この山は活火山なので、草木の乏しいガレ場が延々とつづく。岩と火山礫に覆われた黒い山肌と、硫黄の匂い。まるで月世界のような不思議な光景に惹かれて、何度も足を運んだ。

その中腹にある白銀荘という山小屋で、雪水学者の中谷宇吉郎が雪の結晶を観察していたことを知ったのは、つい最近のことだ。彼は北海道大学で雪氷の研究に取り組み、一九三六年、人工的に雪の結晶を作ること成功する。その功績を讃える「人工雪誕生の地」という碑が北大構内にあることは知っていたが、学生時代には気にとめることもなかった。ところが先日、石川県にある「中谷宇吉郎 雪の科学館」を訪れ、十勝岳に向かう馬橋に乗って破顔一笑している宇吉郎の写真を見て以来、にわかに彼の研究とその生涯への関心が芽生えてきた。なにしろ十勝岳である。

厳寒の中、山小屋のヴェランダで雪の結晶を撮影しつづけたという宇吉郎のみた景色を想像してみる。生きものの淡い影すらない一面の銀世界。暗い空から霏霏として降つ

石井美保 

【視点】一見対立する「科学」と「詩学」、その二つが助詞の「の」ひとつで結び合わされる。そこにはどのような論理が働いているのか。

- 1 十勝岳 北海道の中央部にある活火山。標高二〇七七メートル。
- 2 ガレ場 がけ崩れが起きて、岩石が転がっている急斜面のこと。
- 3 中谷宇吉郎 一九〇〇(明治三三)―一六二(昭和三七)年。雪水学者・随筆家。天然雪結晶の分類や、人工雪生成の研究で多くの業績を上げた。
- 4 北海道大学 北海道にある国立大学法人。一八七六(明治九)年創設の札幌農学校を起源とする。

【1】「関心が芽生え」たのはなぜか。

…科学の詩学へ

link マーク

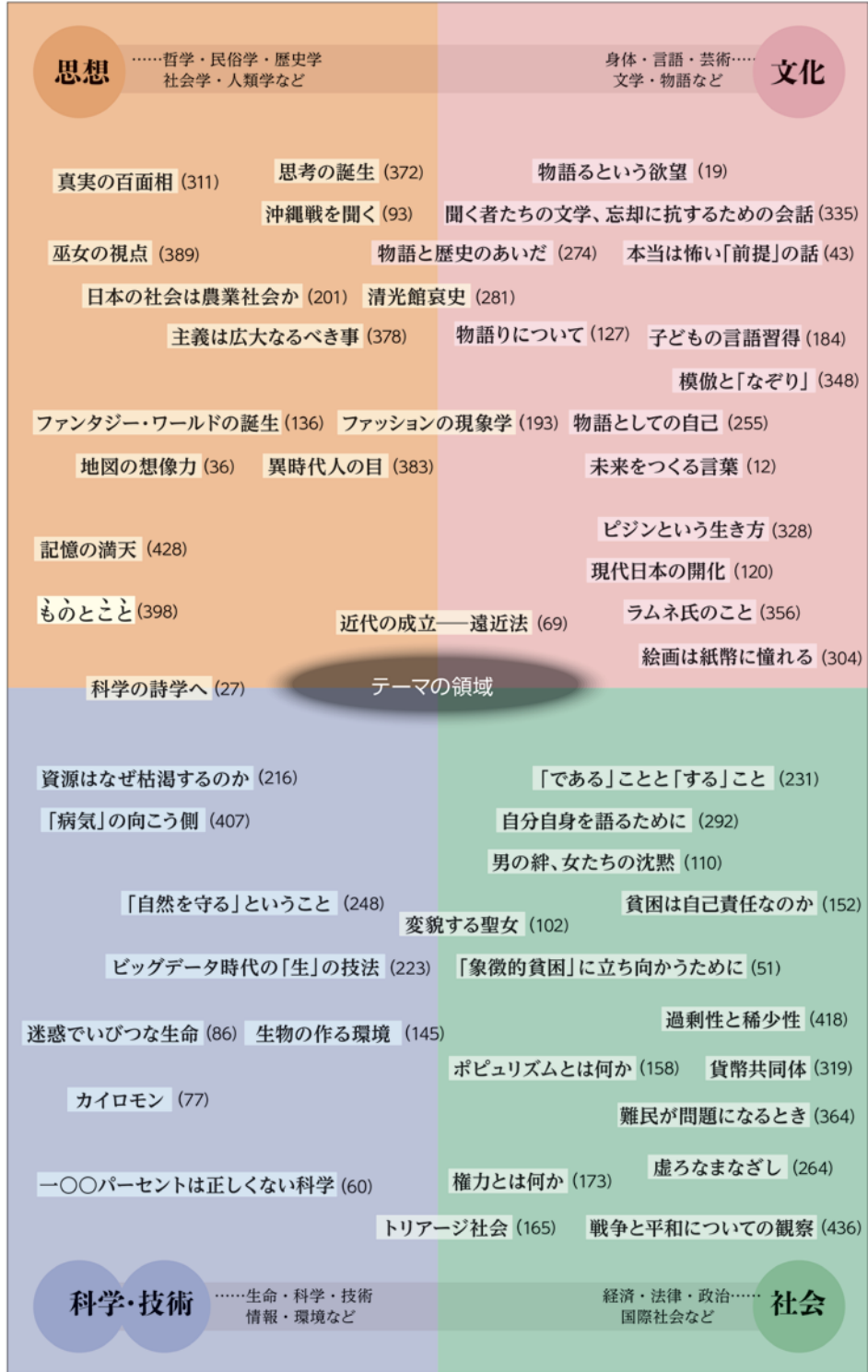
ink マークのある教材は、インターネット上に参考資料があります。教科書「凡例」ページの二次元コードもしくはURLを開くと、小社ホームページの「参考資料一覧」に遷移し、各種参考資料のリンクが掲載されています。



◎『論理国語 改訂版』で学ぶ評論のテーマ

この教科書で学ぶすべての教材を口絵でチャート化しました。生徒のテーマ理解に役立ちます。小論文対策にも最適です。

◎『論理国語 改訂版』で学ぶ評論のテーマ



羅針盤・2……比べて読もう

夏目漱石「こころ」の「語り」

「物語りについて」(二七ページ)は語り手の「覚悟」と受け手の「関心」が相互に重要な役割を果たすと述べる。同じ問題を扱った小説として、夏目漱石(二五ページ)の「こころ」が挙げられる。大学生の「私」は、偶然知り合った男性を「先生」と呼び、親しく交わるなかで強い尊敬の念を抱くようになる。しかし、

は世に知られることなく、妻と二人ひっそりと暮らしている。これはどうも「先生」がそのように身を隠すような生きているのか、「私」は強い関心をもつが、「先生」は決して打ち明けることはなかった。「私」が郷里の父の重病によっていたとき、明治天皇が亡くなり、明治という時代が終焉を迎え、殉死者が出たことが報道されたあと、「私」のもとに「先分厚い手紙が届いた。それは「先生」の遺書であった。そ自殺を決意した「先生」の生き方と生涯の秘密に関わる、出来事が書かれていた。

両親を失った「先生」は親族に裏切られ、強い人間不信を抱えていたが、下宿した家の奥さんとお嬢さんに支えられ、聞くようになる。「先生」はかつての自分と同様、孤独

羅針盤・3……比べて読もう

森鷗外「舞姫」が語る「自己」

「物語としての自己」(二五九ページ)では、私たちが「自分で物語をつくりだす存在」であり、同時に既存の物語に制約される存在でもあると論じている。これは、森鷗外(二八六―一九三三)の小説「舞姫」を理解する重要な手掛かりにもなる。「舞姫」の語り手「余」(本名豊太郎)は、彼自身の人生を「制約」しようとする複数の物語の狭間で苦しんだ結果、自らの「心」さえ信じられなくなった存在として「今の我」に現在の自分を提示しようとしているからだ。小説の舞台は明治一〇年代後半から二〇年代初め。豊太郎は、これらの「近代国家の建設」を担う若き官僚の一人として、希望に胸をふくらませてドイツの首都・ベルリンに降り立った。しかしヨーロッパの新しい学問に触れる中で、豊太郎は「立身出世」という「支配的な物語」に囚われていたのではないかとこの疑問を持つようになる。それまで自分は、他者が期待するように生きてきたが、それは「ほんとうの自分」ではなかったのではないか。そんな思いを抱えた彼の目の前に現れたのが、「舞姫」エリスだったのである。人は自らの生を物語というかたちで他者に語ることができる。だが、人間が生きた軌跡は、一つの筋道で語りきれられるほど単純なもの

「山月記」「こころ」「夢十夜」「舞姫」などの本文は二次元コードからダウンロードして読むことができます。



ではない。過去を語る物語は、常に語り手にとっての現在が起点となる。と同時に、物語の受け手との関わりで、その内容は微妙に調整されていく。同じ身の上話でも、豊太郎はエリス、親友の「相沢」、大臣である「天方」のそれぞれに対して、まったく同一の物語を語ったわけではないだろう。突きつめれば矛盾をはらんだ複数の物語を語ってしまった豊太郎は、厳しい決断を迫られる。しかもそれは、エリスが選び取ろうとした物語の未来を左右する選択でもあった。人は常に他者とともに生きていく。そうである以上、自分がつくりだした物語を貫こうとすることは、別の誰かの物語の実現を妨げたり、制約したりすることになるかもしれない。人間どうしのつぎぎならぬ対立やドラマがそこから生まれる。すぐれた小説は物語を語る側だけでなく、語られた側の人物の物語をも刻み込んでいる。では、エリスの立場から考えてみると、彼女は豊太郎との出会いを、どんな物語として語ったのだろうか。「舞姫」は日本の近代小説の画期となった作品の一つとされる。評論で学んだキーワードをもとに読解を深めていくことで、その作品世界の豊饒さをより具体的に理解できるようになるはずだ。

◎ 実践

探究活動に不可欠な知識や、活動の手順を具体的に示しました。生徒たちの主体的な学びを支えます。

書く

実践②：レポートを書こう

「レポート」とは、テーマに沿って調べたことをわかりやすく報告する文章のことである。レポートを書くにあたり、何をテーマとしているのか、読む対象は誰なのか、報告する目的は何かを理解しなければならない。目標を明確にして、レポートを書いてみよう。

レッスン

レポートを書こう

高校生にはレポートの提出を求められる機会。説得力のあるレポートの書き方を学ぼう

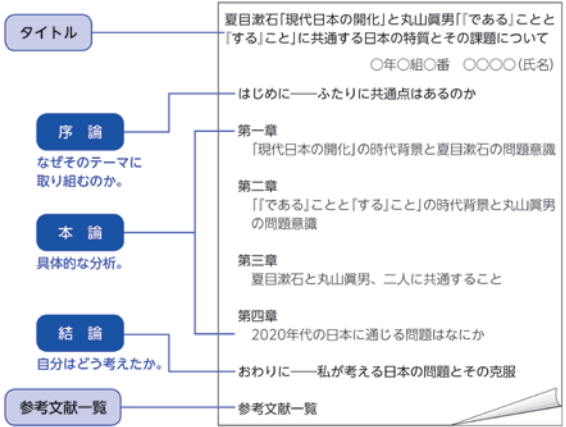
② レポートを書く手順

- ① レポートの型
 - ・課題型・設問型……学んだことをまとめたりされた書物や調べの題材が提示されたりする読書レポート、調べ学習の報告レポート、実察の報告レポートなど。
 - ・問題発見型……自分で課題を見つけ出し、収集し、仮説を立てたり、自分の意見を述べるとき、自由研究、小論文、期末レポート、文など。

③ レポートを書く際の注意点

- ・情報は信頼のおけるものを探すようにしましょう。インターネットなどで安易に入手した信頼度の低い情報をもとになっていたり、自分の意見や認識について客観的な証明がなされないまま周知の事実であるかのように書かれたりしているレポートは信頼されないのに注意しよう。
- ・どのような情報にも「バイアス」(三八ページ)がかかるものである。レポートに用いた情報がどのような視点から提示されているか分かるように、出典を明記し、資料の性質を示そう。
- ・数値化されたデータを自分の解釈や主張に都合のよいように使ってはならない。数字の解釈や見せ方など、取り扱いは十分な注意が必要である。
- ・使用した資料、文献、図表などには必ず著者・機関名、書籍名・サイト名、発表年などの出典を明記しよう。引用する文章には必ず「」を付したり、その前後で改行したりして、自分の考えや文章とは明確に分けて記述しよう。

④ レポートの構成例



文学国語

改訂版

良質な小説・詩歌から、文学を深く掘り下げる
評論・随想まで、ことばの本質を問、人文知の扉を開く、
筑摩書房全力投球の国語教科書。

文国143-901 / A5判・480頁

編集委員のことば

「文学」を国語教育の中でどのように位置づけるべきか、従来もさまざまな議論が積み重ねられてきました。これを情操教育の一環として、言語運用能力の育成と区別する立場もあります。筑摩書房の教科書は一貫してその逆、つまりコミュニケーション能力の育成と文学教育とを不可分のものと考え、立場を取っています。

もともと「文学」という言葉は、歴史的には文字で書かれた学問の全てを指す総称であり、この語が狭い意味での言語芸術の名称と

して用いられるようになったのは明治も後半になってからのことでした。近年、人文科学の世界ではこうした反省からあらためてこれを広く文化全体の中で捉え直そうとする動きが一般化しており、こうした流れを踏まえた上で、本教科書もまた、旧来の狭い「文学」概念からの脱却を目指しています。

言葉は、人間の想像力が発動するすべての出発点です。宗教、イデオロギー、貧富の差などによって世界の分断が進む中で、さらにはネット社会固有の孤独な状況がすすむ中で、



東京大学名誉教授 安藤 宏

異質な他者や世界の成り立ちについて考えていく「人文知」は今日ますますその重要性を増しており、「文学」はまさにその中核をなすものです。文学教材は決して「博物館の陳列ケース」の中にある過去の文化財としてあるわけではありません。これからの現代社会を生き抜いていく上で、なくてはならぬ知恵の泉なのです。

今回のわれわれの提案を、本来あるべき「国語」の姿として、積極的なご支持を頂ければこれに過ぎる幸いはありません。

編集のポイント

◎多様なレトリックと豊かな想像力、人間とことばの本質を掘り下げる「文学的文章」を、**文芸作品に限定せずバラエティ豊かに採録**しました。

◎大学入試はもちろん、未来を切り開く、多様なものの見方・考え方を示す文章を意識的に選択しました。

教材の特徴

①**第一部10単元28教材**(うち韻文5本)、**第二部8単元22教材**(うち韻文4本)と充実のラインナップ。

②原則として各単元内の**教材配列は易↓難↑**。

③**定番の小説・詩歌教材**はもちろん、「文学とは何か」について深く思考を巡らせ、議論を深めることのできる**随想・評論教材**まで幅広くセレクト。

④生徒によってさまざまな**資質・能力**を引き出せる奥の深い教材を厳選。

授業を支える工夫

①「第一部」「第二部」の冒頭に学びの見通しを立てるために役立つ「**単元の目標**」と教材ごとの「**視点**」を提示。

②教材ごとに学びを深める「**理解**」と「**表現**」を提示。

③教材ごとに理解の幅を広げる知識やヒントをコンパクトにまとめたコラム「**読解の窓**」を掲載。

④比べ読みの練習に、「**参考**」の文章を適宜掲載。

⑤主体的な学びを支える「**実践**」を適宜掲載。



文学国語 改訂版 編集委員

安藤 宏	東京大学名誉教授
門屋 敦	東大寺学園中・高等学校教諭
紅野謙介	日本大学名誉教授
河野龍也	東京大学准教授
五味淵典嗣	早稲田大学教授
清水良典	文芸評論家・愛知淑徳大学名誉教授
関口隆一	筑波大学附属駒場中・高等学校教諭
橘 直弥	灘中学校・高等学校教諭
中谷いづみ	二松学舎大学教授
服部徹也	東洋大学准教授
松田顕子	立教新座中学校・高等学校教諭
森 大徳	筑波大学附属駒場中・高等学校教諭
吉田 光	郁文館中学校・高等学校教諭

◎教材数は、第一部10単元・28本（うち韻文は5本）
◎バラエティ豊かなジャンルから構成。

第一部

単元の目標……………10

第1章…ことばから広がる世 **新**
アイオワの玉葱 長田 弘……………12
情報の彫刻 原 研哉……………20
異なり記念日 齋藤陽道……………26

第2章…物語との出会い **書**
山月記 中島 敦……………34
神様 川上弘美……………47
〈参考〉神様2011(抜粋) 川上弘美……………56

第3章…世界観の変革 **読**
実践① 構成と展開を工夫して、変身物語を書こう……………59
◇小説のポイント……………60
〈参考〉「私は」——書き出しの一行 角田光代……………63

第4章…想像力の飛躍 **読**
実践② 表現を工夫して大切な場所のエッセイを書こう……………221

第5章…自己と向き合う **読**
実践③ 読者の声と状況の美 高階秀爾……………66
メディアと倫理 和田伸一郎……………73
真ん中なる／ならざる風景 李 琴峰……………79
バイリンガリズムの政治学 今福龍太……………86
記号論と生のリアリティ 立川健二……………93
金縷いの景色 藤原辰史……………100
こころ 夏目漱石……………112
フォーカス①…夏目漱石と「こころ」……………139
〈参考〉私の個人主義 夏目漱石……………140

第6章…過去との対話 **読**
死者の声を運ぶ小舟 小川洋子……………148
空と風と星と詩 茨木のり子……………157
建築論ノート 松山 巖……………170
プラスチック膜を破って 梨木香歩……………178
アイスクリーム熱 川上未映子……………187
靴 安部公房……………195

第7章…生の手ざわり **読**
小景異情 室生犀星……………202
サーカス 中原中也……………203
永訣の朝 宮澤賢治……………205
短歌……………210
死にたまふ母 斎藤茂吉……………213
沈黙の種子 小池昌代……………216

第8章…調べとリズム **書**
亡くなった人たちの声に耳を傾ける……………156
韓国文化・文学……………169
引用……………177
自分の殻を破る……………186
小説の中の人間関係……………194
小説と現実……………201

第9章…思考の道筋をたどる **読**
化物の進化 寺田寅彦……………222
文学の仕事 加藤周一……………232
捨てない女 多和田葉子……………240
魂込め 目取真俊……………247

第10章…日常の裂け目 **読**
パラダイム・シフト……………231
アイデンティティの二側面……………239
小説の創造力……………246
沖縄文学……………269

読書案内……………270

比べ読みに最適な「参考」教材。

新しい小説や、長めの小説も取り上げました。

すべての教材に生徒の興味関心の幅を広げ、理解を深める「読解の窓」を示しました。

「人文知」としての文学の本質を探究する文学評論も多数掲載。



新

新

新

読解の窓



第一部

単元の目標……………272

第1章…物語が生まれる場所 **新** 言葉のあいだの言葉 柴崎友香……………274
小説とは何か 三島由紀夫……………280
(参考)遠野物語 柳田國男……………286
陰翳礼讃 谷崎潤一郎……………288

読解の窓
異質な「他者」への想像力……………279
柳田國男と民俗学……………285
日本文化論……………295
「舞姫」と日本の近代……………324

第2章…交差するドラマ **読む**
小説(一)

新 舞姫 森 鷗外……………296
フォーカス②…近代小説の誕生……………325



小林エリカ……………326
事実の力—ノンフィクション……………336

実践③「編集」という表現方法を楽しもう……………337

第3章…新たな視座を得る **読む**
随想・評論(二)

新 確かにそういう時間があったということ
堀江 栞……………338

新 日本文化私観 坂口安吾……………343
隠れん坊の精神史 藤田省三……………351

芸術・文学と「癒やし」……………342
美について語ること……………350
遊戯・子ども……………357

第4章…文体がひらく世界 **読む**
小説(三)

水仙 太宰 治……………358
王国 津村記久子……………374

「自己」をめぐるドラマ—太宰治の文学……………373
物語の持つ力……………387

第5章…表現を突き詰める **読む**
随想・評論(三)

無常ということ 小林秀雄……………388
骨とまぼろし 真木悠介……………394

偉大な思索者・小林秀雄……………393
異なる言語、異なる文化の魅力……………400



ある(共生)の経験から 石原吉郎……………401

想像する力……………411

第6章…詩歌という隣人 **読む**
詩歌・随想

無題 吉原幸子……………412
旅情 石垣りん……………414
N 森林公園の冬 北村太郎……………416
俳句……………420

新 鈴虫の間、ぼくの六畳間
アーサー・ピナード……………424

小説家と俳句……………423

第7章…歴史の記憶 **読む**
小説(四)

新 藤野先生 魯迅……………430
砲撃のあとで 三木 卓……………439

空白の美学……………429
近代日本とアジア……………438
記憶と記録……………451

第8章…未来を問う **読む**
随想・評論(四)

新 寛容は自らを守るために不寛容に対して
不寛容になるべきか 渡辺一夫……………452
チャンピオンの定義 大江健三郎……………459

二者択一の罫……………458
ことばと文学……………470

実践④ 創作の背景について調べよう……………471

読書案内……………472
(付録) 近現代文学史……………474



文学の可能性やその豊かさを示す文章も多数掲載しました。

主体的な学びを助ける探究活動例としての「実践」。

近代の文学評論・小説から、現代におけることばのありかたを追究する文学評論・随想・小説まで幅広く掲載。

第1章



アイオワの玉葱 長田 弘 3100字

言葉は単なる道具ではなく、思考や感情を作り出す枠組みそのものでもあり、母語と外国語を比較する中で見えてくるものとは、自分と自文化を自明視せず、己を客観的に見つめ直すきっかけとなる教材。

情報の彫刻 原 研哉 2400字



電子書籍や電子教科書など、メディアの非物質化が進む現代だからこそ、「紙」の書籍の魅力が「履生きてくる」ことを簡潔明快に説明。「電子メディア／紙」というメディア」という簡単な対比で「二項対立」論構造も学べる。

異なり記念日 齋藤陽道 3500字



多様な背景を持つ他者とのように出会い、触れ合うか、先天性の感音性難聴を持つ筆者の経験を、親しみやすい文体で追体験しながら、根の深い社会問題へと考えが深まる教材。

第2章



山月記 中島 敦 6000字

虎に変身する、というフィクションを通して、人間の自我をめぐる葛藤が描かれる。会話文や心理描写など多様な着眼点から、小説を読み解く楽しみを幾重にも知ることができる、定番かつ新たな発見も得られる小説教材。

神様 川上弘美 3500字



近所に「くま」が引っ越してきたという寓話的な題材を通じて、異質な他者とのあり方を考えさせられる短編小説。著者は二〇一二年の東日本大震災を受け、細部を緻密に書き換えた「神様2011」も発表した。本教科書にはこちらも一部抜粋して掲載しており、比べ読みができる。

第3章



実体の美と状況の美 高階秀爾 3200字

西洋と東洋の美意識の違い、美意識の中に潜む文化的な基準を、歴史上のさまざまな具体例からあぶり出す。文学や美術など豊富な痕跡をたどり、比較文化論の入り口としても親しめる教材。

メディアと倫理 和田信一郎 2700字



ベトナム戦争を題材に、報道写真と、同じ出来事がライブ中継された場合との差異の中から、テレビ視聴者に固有の倫理的なシレンマを導き出す。多様なメディアから情報を受け取る今、本教材が、情報発信媒体への批評的な想像力を獲得する契機となるだろう。

真ん中なる／ならざる風景 李 琴美 2300字



台湾出身で、日本語で小説を書き、性的マイノリティでもあるという筆者。それは「真ん中」つまり、中間、境界の属性を持つということであるが、しかし、「真ん中」でない人などいるのだろうか。あるいは「真ん中ならざる場所」との行き来は不可能なのだろうか。現代社会を生きる私たちに必須の視点。

第4章



バイリンガリズムの政治学 今福龍太 2800字

一つの道路標識の背後に潜む複数の境界線について、筆者独自の着眼点から鋭く分析する。生徒の視野を広げる絶好の教材。

記号論と生のリアリティ 立川健二 2800字



事物の自明性を疑い、世界が記号のシステムによって秩序づけられていることを、筆者は具体例を用いて明瞭に指摘する。詩や漫画など身近な事例を持ち寄って、筆者の説く「記号論」を体得する授業へと展開できる教材。

金繕いの景色 藤原辰史 6600字



器を長く愛用するため欠けやひびを少しずつ修繕し、ときに修繕痕も慈しみの対象とする金繕いの手法は、新品に覆われた現代社会を省みる糸口になる。筆者の豊かな発想と有機的な主張の展開に、目が開かれる教材。

第5章



こころ 夏目漱石 20300字

言わずと知れた定番の小説教材。自己に徹底的にこだわり、苦悶してきた近代という時代を色濃く映し出したこの小説は、しかし現代にも通じる普遍的な魅力を放って読み手の胸に迫ってくる。直後に掲載した「私の個人主義」と併せて読み解きたい。

第6章



死者の声を運ぶ小舟 小川洋子 3900字

人々が打ちのめされ、破壊される悲劇の前に、「文学」はどのような力を持ち得るのか、自身も小説家である筆者は、死者の声、声にならない声を伝え続ける文学作品の事例を紹介し、そこに可能性を見いだす。文学作品を読み進める上で、羅針盤となる教材。

空と風と星と詩 茨木のり子 4300字



筑摩書房独自の定番教材。第二次世界大戦中の日本で、特別高等警察に反乱分子の嫌疑をかけられ獄死した韓国の青年詩人「尹東柱」の詩を、同じく詩人の茨木のり子が哀悼をこめて振り返る。

建築論ノート 松山 巖 3200字



生活を営んできた建物を容易に壊しては作り直す、という姿勢は、私たち人間に何をもちたらずのか。トマス・ハーディの詩の引用、そして比喩とレトリックを駆使して、その破滅性を読み手に訴える、文学的な評論教材。

第7章



プラスチック膜を破って 梨木香歩 3200字

周りの情報を遮断して個々人の世界に閉じこもる様子を「プラスチック膜」という比喩で表現し、それが破れて感情が伝わり合う喜びを、ストーリー・テラーとして定評のある小説家が軽妙な語り口で綴る。

アイスクリーム熱 川上末映子 3900字



小説の中に描かれた人間関係を解く鍵は、ことばつおろそかにしないことだ。会話、情景描写、行動、表情、このことばから何を読み取るか。教室で話し合いたい巧緻な現代小説。

靴 安部公房 2600字



「青年」と「私」がやり取りする「靴」とは、一体何を意味するのか。読み手の常識を揺さぶる寓意的な展開に、生徒たちの想像力が大きく膨らむ短編小説。創作やディスカッションの題材にもぴったり。

第8章



詩歌

必ず知っておきたい名詩歌選。「小景異情」(室生犀星)「サーカス」(中原中也)「永訣の朝」(宮沢賢治)と、近現代短歌、「死にたまふ母」(斎藤茂吉)

沈黙の種子 小池昌代 1900字



饒舌に語ることだけが人の心を動かすものではない、ということ。日常の中にひそむ「詩」のことばから学ぶ。

化物の進化 寺田寅彦 4900字



「化物がないと思うのはかえって本当の迷信である」とする、一見すると意味の通らない主張を、筆者は科学的な知識と経験に基づいて鮮やかな逆説へと仕上げていく。物理学者として有名な一方、数多くの随筆も残してきた筆者の思考の特異な痕跡が垣間見える教材。

文学の仕事 加藤周一 3500字



社会にあつて、「文学」が果たすべき役割とは何か。筆者が繰り出す具体例はそれだけでも面白いが、その中から見えてくる文学の意義についての論者は、さまざまな問題を抱える現代社会にこそ響いてくる。読み終える前と後で、創作物に対する見方が一変すること請け合いの教材。

第10章



捨てない女 多和田葉子 3500字

ゴミと格闘する「わたし」の姿を描く、一見突拍子もない物語だが、文章内の多様な言葉遊びから筆者の創造力と言業への熱い思いを読み解くことができる、類を見ない短編小説。海外でも注目される筆者の世界観に触れることができる。

魂込め(まぶいぐみ) 目取真俊 14300字

「魂(まぶい)」を落とした者にそれを戻してやる「魂込め(まぶいぐみ)」を軸に、沖繩の戦争の記憶、そしてそれが現在まで地続きであることを、臨場感あふれる筆致で描く。沖繩出身で、方言を用いた小説を書き続ける筆者だからこそ表現できる、方言と標準語とが絡み合った胸を打つ小説教材。

第1章



言葉のあいだの言葉 柴崎友香 23000字

インターネット上に飛び交う雑駁なことばの応酬や、そこから生じる軋轢。現代の高校生の中には、その痛みを体験しているだろう。他者への想像力を鍛えるために「文学」を学ぶ意義を第二部の冒頭で確認したい。

小説とは何か 三島由紀夫 24000字



「遠野物語」を持つ、「あ、ここに小説があった」と言わしめる魅力とは何か。実体験のような感銘を与える小説の魅力を、短い文章の中に凝縮させた名文。



陰翳礼讃 谷崎潤一郎 33000字

長く愛される定番教材。日本の伝統文化は、意識せずに料理と器、器とその空間との調和を追究してきたのではないか。モノと人間との関係という角度から、日本文化を見直す。

第2章



舞姫 森 鷗外 16000字

大定番教材。書かれた時代背景を踏まえ、物語の展開はもちろん、語り時の時制や文体など、それまでの小説と一線を画した実験性に富んだ書きぶりであることに注目したい。



女の子たち風船爆弾をつくる 小林エリカ 42000字

第二次世界大戦時、女子生徒たちが東京宝塚劇場で風船爆弾をつくったという史実から、戦時下の青春を小説の形で生き生きと描き出す。小説という表現の持つ力を味わう。

第3章



確かにそういう時間があったということ 堀江 栞 21000字

つらい体験を昇華させた芸術の力を、豊かな比喩表現で伝えるエッセイ。



日本文化私観 坂口安吾

文化とは、いま、人間が生き存在しているところにある。坂口安吾による痛快な日本文化論。



隠れん坊の精神史 藤田省三 34000字

おとぎ話と隠れん坊は、子どもたちにとっていかなる意味を持つのか、誰にとっても身近なテーマだが、深い思索と重厚な語り口で、本質を突いていく展開は圧巻。

第4章



水仙 太宰治 115000字

「自身の才能を信じていけなかつた天才の悲劇」を描いた、著者ならではのテーマと文体が楽しめる小説。単なる「天才」論ではなく、誰にも通じる普遍的なテーマ（自己の「本分」とは何かをさまざまに思い悩む思春期特有の苦悶）を扱っている点でも、生徒たちの心を動かせるはず。



王国 津村記久子 95000字

幼児の持つ、大人が思いも及ばないほどの豊かな想像力の広がりや、太宰治賞出身の著者が生き生きと描きます。物語を生み出すという行為が人間にとってある種の救いになるのではないかと、考えさせられる小説教材。

第5章



無常ということ 小林秀雄 24000字

歴史を「上手に思い出す」とはどのようなことか。近代文学において批評というジャンルを確立した著者による、鮮やかな筆致で読み手を思索へと誘う教材。著者ならではの表現を一つ一つ丁寧に読み取ってほしい。

骨とまほろし 真木悠介 29000字



メキシコを題材に、固有の「社会」を持つ独自性を「メンティラ」(うそ)と「カラベラ」(がいこ)という記号から読み解いていく文化論。異文化の考察にとどまらない、著者独特の想像の広がり、思わず引き込まれる。



ある(共生)の経験から 石原吉郎 50000字

シベリア抑留を経験した詩人による凄烈な回想録。極限状態において、他者の存在が憎悪の対象であると同時に、生存に不可欠な伴侶であったことが切々と語られる。想像しえないものを、それでも自分に寄せて思いめぐらすことの重要さを、考えずにはいられない教材。

第6章



詩歌

新しい表現に挑戦し続ける現代詩から、「無題」(吉原幸子)「旅情」(石垣りん)「N森林公園の冬」(北村太郎)と併句。

鈴虫の間、ぼくの六畳間 アーサー・ピナード 19000字

アメリカで生まれ、日本語で創作活動を行う詩人によるエッセイ。「間」という一語をめぐって繰り広げられるユニークな発想にはっとさせられる。

第7章



藤野先生 魯迅 47000字

中国から日本へと留学し孤独の中にいた著者に、期待を寄せてくれた二人の日本人教員。その記憶は著者にとって、後々まで困難を生きる糧となった。当時の時代背景を踏まえ読みを深めていきたい、定番の小説教材。



砲撃のあとで 三木 卓 96000字

植民地の旧満州から引き上げる瞬間を少年の視線で書いた小説。今なお戦地に生きる子どもたちがいる現代において、あらたに読み直したい名作。

第8章



寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容になるべきか 渡辺 夫 31000字

一九五一年に発表された文章だが、ここで論じられた「寛容を説く精神」の意義は、時間を経てより一層重要であると言わざるを得ない。高校卒業を間近に控えた時期に、触れる価値のある教材。



チャンピオンの定義 大江健三郎 54000字

「チャンピオン」という言葉には、「優勝者」「選手権保持者」という意味の他に、「闘うことのできない誰かの代わりに、その支持者・擁護者として闘う者」という意味もある。ノーベル文学賞受賞者である著者が、その定義を再発見することになったある事件を語る、奥深い随想。

◎単元の目標

生徒一人一人が単元のねらいを理解することで、主体的に目的をもって学べるよう、単元ごとに「単元の目標」を示しています。

単元の目標

この教科書は、それぞれの章に次のような学習目標があります。学習目標に注意して、見直しを持って学びましょう。

第1章 ことばから広がる世界 随想・評論(一)

▼目標：豊かな認識へと導くことばに触れる

私たちはさまざまな境界線を引くことで世界を捉えている。自己と他者との境界もその一つである。ことばは、この境界を作り替え、自我を外界へと開く力を持っている。越境の可能性を鮮やかに示した文章を味わい、文学の豊かな世界へと歩みを進めよう。

第2章 物語との出会い、小説・随想(一)

▼目標：小説から情景や心情を読み取る

不思議な世界との遭遇を描いた小説を通し、情景や心情を正確に読み取ろう。そして、小説ならではの豊かな表現と語彙を学び、自らも物語を書いてみよう。

第3章 世界観の変革 随想・評論(二)

▼目標：文学的想像力によって世界を理解する

部分や「闇」と出会い、悩み苦悶してきた歴史でもあった。この問題を、日本近代文学を代表する作家・夏目漱石の作品を通して考えてみよう。

第6章 過去との対話 随想・評論(四)

▼目標：生の軌跡をひもとき、現在のあり方を考える

過去の作品・資料・記録は、現在の社会のありようを振り返るための叡智に満ちている。過ぎた時間への思いにあふれた文章を味わい、矛盾や葛藤を含めて物事を伝える文学の力に触れよう。

第7章 生の手ざわり 小説・随想(三)

▼目標：世界の捉え方を明らかにする

他者がこの世界をどのように捉えて生きているのかということばは、ことばを介して想像することでしか理解できない。感覚的な描写を読み解くことで、随筆や小説に込められた生の手ざわりを感じ取ろう。

第8章 調べとリズム 詩歌・随想

▼目標：選び抜かれたことばの、洗練されたリズムを味わう

第4章 想像力の飛躍 随想・評論(三)

▼目標：現実を多面的に捉える想像力を身につける

人間は社会制度などによって世界そのものを造り出すと同時に、その世界をことばによって表現し、世界観を造り出してきた。他者が世界をどのように捉えているかを知り、文学的想像力によって自分自身の世界観を更新していこう。

第5章 自己と向き合う 小説・随想(二)

▼目標：「自己」を追い求める近代の特色について考える

近代というのは「ほかの誰とも違う自分」に徹底してこだわった時代である。それはまた、自己の中の未知の

第9章 思考の道筋をたどる 随想・評論(五)

▼目標：柔軟に思考するための新鮮な着眼点を探る

円滑な社会生活を送るために常識は欠かせない。だが、常識だけで世界を理解するところに、新鮮な生き方があるだろうか。例えば、対極的に語られがちな科学と文学、知性と感性は必ずしも対立しない。既存概念を疑い、新たな思考の枠組みを作り出す着眼点を学び取ろう。

第10章 日常の裂け目 小説・随想(四)

▼目標：現実と非現実をつなぐ小説の深みを理解する

ことばによって作り出される虚構は、現実と隔絶されたファンタジーではなく、現実と非現実とが重なり合う波打ち際のようなものだ。虚構という手法によって現実を問い直そうとする小説を読み解き、そこにどのようなメッセージがあるか考察してみよう。

単元の目標

各単元の「目標」を第一部・第二部の冒頭に提示しました。単元ごとの学びの見通しに役立ちます。

……単元の目標

資質・能力アイコン

各単元で主に身につけたい「資質・能力」を示すアイコンを章ごとにつけてあります。

死者の声を運ぶ小舟

小川洋子

広島は八月六日。長崎は八月九日。そして終戦の日が八月十五日。日本にとって八月は、死者を思う季節である。

本当なら、七五年めの原爆の日を、私たちは東京オリンピックの期間中に迎えるはずだった。しかし、新型コロナウイルスの蔓延によりオリンピックは延期され、思いがけない静けさの中で人々は、死者のために黙禱を捧げることになった。

一九六四年の東京オリンピック大会で聖火の最終ランナーを務めたのは、一九歳の、無名の陸上選手だった。その青年は、原爆投下の当日、広島で生を受けていた。真っ白いランニングシャツと短パンを身に着け、聖火台に続く長い階段を駆け上がる彼の姿は、実に清潔で、均整がとれ、全身に若々しさが満ちあふれていた。この映像を目にするたび、敗戦からわずか一九年で、世界中の人々が集まるスポーツの祭典が日本で催された、という現実が驚かされる。人類が経験したことのない徹底的な破壊の中から誕生した、一人の生命が、炎をなびかせながら、一段一段、火を運んでゆく。最終聖火ランナー選

【視点】文学にはどのような「力」があるのか。筆者の主張を読み取るとともに、例に挙げた作品を読んで確かめてみよう。

1 新型コロナウイルスの蔓延 新型コロナウイルスの蔓延 SARS-CoV-2 の感染によって引き起こされた急性呼吸器疾患 (COVID-19) の世界的流行のこと。二〇一九年十一月、中国湖北省武漢市で感染が初めて確認され、世界に広まった。

視点

身につけたい資質・能力について、学びの見通しを立てやすくするため、すべての教材の冒頭に掲載しています。

出の裏に、政治的な意図が入り乱れていたとしても、広島で生まれた一九歳の青年が放つ生命力には、何のごまかしもなかった。

核兵器廃絶の理想は実現しないままに、やがて、若い肉体が復興の証となる時は過ぎていった。世界で唯一の被爆国として、核兵器の非人道性を訴えてゆくことの難しさに、日本は直面し続けてきた。その難しさは年々、複雑さを増しているように思える。二〇一五年、NHK放送文化研究所が行った原爆意識調査によれば、広島原爆投下の年月日を正確に答えられた割合は、広島市で六九%、長崎市で五〇%、全国では三〇%にとどまったという。忘却の壁はどんどん高くなってゆく。そう遠くない未来に、被爆した人から直接話を聴ける時代は終わりを迎える。

体験者の世代で記憶を途切れさせず、体験していない者がどうやってそれを受け継いでゆくか。二度と繰り返してはならない重大な過ちを犯した時、人類は繰り返して、記憶の継承という問題に立ち向かってきた。数々の戦争、ホロコースト、チェルノブイリ、フクシマ……。もちろんヒロシマ・ナガサキも例外ではない。

自分が生まれる前、遠いどこかで起こった無関係なはずの事実を、単に知識として得るだけでなく、直接の体験と同様に自らに刻み込み、記憶の小舟に載せて次の世代につなげてゆく。この困難を乗り越えるためには、政治や学問の助けだけでは足りない。な

【注】「何のごまかしもなかった」とはどのようなことか。

2 NHK放送文化研究所 東京都港区にある、日本放送協会 (NHK) の放送研究機関。
3 ホロコースト 一九三三年から四五年にかけて行われたナチス・ドイツによるユダヤ人大量虐殺のこと。[英語] the Holocaust

4 チェルノブイリ 一九八六年、旧ソ連 (現ウクライナ) のチェルノブイリ原子力発電所で発生した原子力事故をさす。
5 フクシマ 二〇一一年、東北地方太平洋沖地震により発生した福島第一原子力発電所の原子力事故をさす。

〔蔓延〕(黙禱)

本文フォント

読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを採用しています。

脚注

文章を理解する上で必要な情報を掲載。

重要語句

覚えておきたい熟語や成句・慣用句は見開きごとに整理。

主な著作

著者紹介の末尾には、より深く学びたい生徒のために、著者の代表的著作を紹介して、読書活動に配慮しました。



小川洋子 一九六二（昭和三七）年―。小説家。岡山県に生まれた。一九九一年『妊娠カレンダー』¹で芥川賞、二〇〇四年『博士の愛した数式』で読売文学賞・本屋大賞受賞。この作品は二〇二〇年発行の『The New York Times Magazine』に掲載され、本文はその日本語版によった。
※主な著作 『シュガータイム』『沈黙博物館』『ミナーの行進』など。

今、私の手元に、¹⁴広島平和記念資料館の収蔵品を撮影した写真集『Hiroshima Collection』（撮影土田ヒロミ）がある。中学一年生、¹⁵折免滋君の弁当箱と水筒の写真を見つけている。滋君は動員学徒として作業中に、爆心地から五〇〇メートルで被爆。川の土手に積み重ねられた遺体のカバンから、お母さんがこれを発見した。「今日は大豆ご飯だから、昼飯が楽しみだ。」と言って出かけたという。弁当箱は歪み、蓋には穴が開き、中身は真っ黒に炭化している。
この小さな箱には、息子を思う母親の愛情と、質素な大豆ご飯を楽しみにしていた少年の無邪気さが詰まっている。たとえ原爆の体験者が一人もいなくなっても、弁当箱が朽ちて化石になっても、小さな箱に潜む声を聴き取ろうとする者がいる限り、記憶は途絶えない。死者の声は永遠であり、人間はそれを運ぶための小舟、つまり文学の言葉を持っているのだから。

一（呼応）

……死者の声を運ぶ小舟

生き残った者の使命を果たし終えた、と自ら悟ったかのように、ともに自死している。

私には、互いを知るはずもなかったはずのレーヴィと原、二人の言葉が呼応し合っているように感じられる。ある者は、これが人間か、と問い、ある者は、これが人間なのです、と答える。人間らしくあろうともがく者と、人間らしさを見失うまいとする者が、文学の言葉を通して一つに重なり合い、未来にまで届く思いを響かせている。文学の世界では、単なる無意味な偶然、で済ませられてしまうものの中に、最も大切な真理が映し出される。文学の助けにより、死者の言葉が小舟にすくい上げられ、真実の川を連な

って流れてゆく。
偶然、ということ言えば、原民喜は一九五二年、プリーモ・レーヴィは一九八七年、

ヴィの『これが人間か』を思い出さずにはいられない。冒頭、こんな問いが掲げられている。

これが人間か、考えてほしい
泥にまみれて働き
平安を知らず
パンのかけらを争い
他人がうなずくだけで死に追いやられるものが。

4 「呼応し合っている」とはどのようなことか。

脚問

文脈を理解する上でポイントとなる部分は、簡潔な脚問を通して確認。

「理解」「表現」の二項目に分けて、本文の理解を補助します。

読む 学習

●理解…

- (1) 広島・長崎の原爆の日、終戦記念日に関する新聞や雑誌などの記事を調べ、現代の課題についてまとめなさい。
- (2) 「そう遠くない未来に、被爆した人から直接話を聴ける時代は終わりを迎える。」(二四九・八)とはどのようなことか、説明しなさい。
- (3) 「非論理的な足掻き」(二五〇・一)とはどのようなことか、説明しなさい。
- (4) 「折免滋君の弁当箱と水筒の写真」(二五五・三)から著者はどのようなことを感じ取ったのか、説明しなさい。
- (5) 「死者の声は永遠であり、…つまり文学の言葉を持っている」(二五五・一)とはどのようなことか、説明しなさい。

●表現…

- (1) 本文中に例として挙がっている文学作品の中から一冊を選んで読み、感想を八〇〇字程度でまとめてみよう。
- (2) 本文は「The New York Times Magazine」紙に英語で発表された。本文を英語で語る意義について話し合ってみよう。

重要漢字…

- 148 炎(胃炎) 149 核(核心) 149 被(被害) 150 尊(尊大) 150 戯(遊戯) 151 遺(遺産) 151 症(症状) 151 酷(酷使)
- 151 怪(怪盗) 152 緻(精緻) 152 痕(血痕) 152 孤(孤軍) 153 還(帰還) 154 掲(掲示) 155 蓋(天蓋) 155 朽(老朽)

読解の窓

亡くなった人たちの声に耳を傾ける

「死者の声を運ぶ小舟」は、アメリカによる広島や長崎への原子爆弾投下によって亡くなった、無数の人々の声をめぐる問題を扱ったエッセイである。原爆は街を一瞬のうちに破壊し、広島ではおよそ二万人、長崎では約七万人が被爆から数か月のうちに亡くなったと言われている。犠牲者の膨大な数を強調して悲惨さを訴えると、今度はひとりひとりの声が聞こえなくなる。何万人であろうとも、ひとりひとりそれぞれに顔があり、生活があり、家族があった。

調査をし、被害を報告することは重要だが、それだけではひとりひとりの声は聞こえてこない。生きのびた人たち、経験者の証言や聞き書き、記録が、まずその声を書きとめた第一次の記憶媒体となる。しかし、やがて当事者の生の声を聞くことができなくなるときが来る。そのとき、経験されたことは消えて失われてしまうのだろうか。

文学が伝えるのは当事者の生の声だけではない。声にならなかったことば、それでも伝えようとする思いを、想像力によって補い、まったく同じでないながらも言語化して懸命に届けようとする。そこに文学の力と役割を期待できるのではないか。

読解の窓

『文学国語 改訂版』の学習に必要な知識や、主体的・対話的で深い学びへと誘う解説を掲載しました。

本文中の常用漢字より、重要な漢字は、教材ごとに整理。

◎ おすすめの教材②

文学を通して、思考を深め、世界を広げてゆきたい。
渡辺一夫のこの文章こそ、「文学国語」として読み解くにふさわしい教材です。
(第二部 第8章 未来を問う)

読む 第8章 未来を問う 随想・評論(四)

寛容は自らを守るために

不寛容に対して不寛容になるべきか

わたなべかずお 渡辺一夫

視座 文学者として思索を深めてきた著者の、慎重なことばを選び紡ぎ出す姿勢に学び、文学作品の読解に生かそう。

過去の歴史を見ても、我々の周囲に展開される現実を眺めても、寛容が自らを守るために、不寛容を打倒すると称して、不寛容になった実例をしばしば見出すことができる。しかし、それだからと言って、寛容は、自らを守るために不寛容になつてよいというはずはない。割り切れない、有限な人間として、切羽つまつた場合に際し、いかなる寛容人といえども不寛容に対して不寛容にならざるを得ぬようなことがあるであろう。これは、認める。しかし、このような場合は、実に情ない結末であつて、これを原則として是認肯定する気持ちは僕にないのである。その上、不寛容に報いるに不寛容を以てした結果、双方の人間が、逆上し、狂乱して、避けられたかもしれぬ犠牲をも避けられぬことになったり、更にまた、怨恨と猜疑とが双方の人間の心に深い褶を残して、対立の激化を長引かせたりすることになるのを、僕は、考えまいとしても考えざるを得ない。したがって、僕の結論は、極めて簡単である。寛容は自らを守るために不寛容に対して不寛容たるべきでない、と。繰り返して言うが、この場合も、

インターネット上で膨大な「ことば」が飛び交い、ことばの軋轢から逃れることは難しい。そんな時代にあって、「遅いことば」を「聴く」という態度を提案する文章。国語という教科こそ、「遅いことば」を噛みしめる時間になりたい。(第二部 第一章 物語が生まれる場所)

言葉のあいだの言葉

問題が起こったとき、謝罪やコメントには「不快な思いをさせてしまった」「傷つけた」ことをお詫(わ)びする、とたいてい書いてあることについて。個人ではなく組織だったりすると制約もあるのだろうが、そこにはあまり具体的な、誰の、どの部分が、どんな意味で、どう作用したか、は書かれない。早く事態を收拾しようとする言葉によって、過程を考えて理解し合う機会は失われがちで、軋轢(あつれき)の感情が残っていく。

もし、差別的な作用を持つ言葉としたら、「不快」や「傷つけた」ではなく、それは、誰かの暮らしの選択を狭める、もつとと言うと、おびやかす言葉なのだと思う。平穩に生きていくことを難しくする言葉。自分について周りの人に躊躇(ちゅうちよ)なく話せなかったり、そのせいで不安をもったり、仕事や行動を選択する自由が狭められたりする。それは、自己評価にも、尊厳にも関わってくる。さらにその言葉が広がって人から向けられれば、実際に生活がおびやかされる。今現在も看過できない事態がいくつも起きている。

言葉を発した人がどのような意図を持っているかは別に、ある人が属性や条件を気

柴崎友香 

視点 ことばが差別や偏見を生む恐ろしさを認識し、自己とは異なる他者の存在に思いを巡らす文学的想像力について、考えてみよう。

link マーク

link マークのある教材は、インターネット上に参考資料があります。教科書「凡例」ページの二次元コードもしくは URL を開くと、小社 HP の「参考資料一覧」に遷移し、各種参考資料へのリンクが掲載されています。



◎実践・小説のポイント

「実践」では探究活動に不可欠な知識や、活動の手順を具体的に示しました。生徒たちの主体的な学びを支えます。また、小説を理解するコツをまとめた「小説のポイント」を掲載しています。



実践②…表現を工夫して大切な場所のエッセイを書こう

心に残る場所をことばで表現してみよう。世界は複雑で、原稿用紙の平面には再現できないかもしれない。しかし表現を吟味することで、ことばは事実ばかりでなく、思いを伝える手段となる。詩作と同様、ことばの選択を工夫しながら、エッセイを書こう。

レッスン

場所にまつわるエッセイをまとめてみよう

エッセイは「随想」ともい、書き手の「想」[「随って」自由]に書かれた文章のことで、評ように、あるテーマに関する主張を論理的に文章とは異なる。むしろ、ことばの選択に始細部にまで気を配り、練り上げられた文章は感性に直接訴えかける詩・短歌・俳句と通ころがあるだろう。詩歌のことばの選択やレクからも学びながら、エッセイを書いてみよう

① 思いつく場所をいくつか挙げてみよう。今座る席、友人との待ち合わせ場所、旅先の空、

小説のポイント

1 設定と展開を整理しよう

ときに人を惹き、未知の体験に誘い、人生を変えることすらある小説。そんな小説を生み出すためには、作品との豊かな出会いが大切だ。ここでは小説を理解するポイントを確認しよう。

まずは作中人物の年齢・性別・職業・性格などの特徴をもとに人物像を立ち上げよう。親子・友人・恋人などの人物相互の関係もつかんでおこう。なかでも、時代や場所など、出来事の原因となる設定を理解しておくことが極めて重要である。そのうえでどの場面で人物や人間関係が変化していくのか、物語がどのように展開していくのかを追いたい。場所や時間の変化、作中人物同士の行為や会話などに目を向けることで、物語の展開がはつきりと見えてくるはずだ。

また、物語は必ずしも出来事が起こった時系列に沿って展開するとは限らない。作中人物の回想や心情表現の挿入、時間の変化や場所の移動などにも注意を払おう。

特定の作中人物だけでなく、他の人物の視点からも出来事を見直してみよう。思わぬ部分が見えてくると、その小説への理解が深まるに違いない。

5W1H	
When (いつ)	
Where (どこで)	
Who (だれが)	
What (なにを)	
Why (なぜ)	
How (どのようにしたのか)	



古典探究

改訂版

古典が培う普遍的なことばの力強さと繊細さに目を開かせる「探究」の名にふさわしい伝統と革新の古典教材。

古探143-901 / A5判・320頁 古探143-902 / A5判・192頁

編集委員のことば



青山学院大学教授 高田祐彦(古文編)

古典が私たちにとって意義を持つのは、現在とは異なるその独自性と、現在にも深くつながっている普遍性のゆえである。古典学習においては、何よりもこの両面を意識することが重要になる。そのためにも、古典のことばそのものの力を感じつつ、作品世界の投げかけるものに深く思考をめぐらすことができるような良質の教材が不可欠となる。『古典探究』は名称どおり一段と深く古典の世界を「探究」するものと捉え、従来支持を受けてきた定番教材や構成を十分に生かしながら、さらなる掘り下げをおこなった。その一方、意欲的に新しい教材も加えることによって、古典「探究」にふさわしい幅広さも獲得できるよう、種々工夫してみた。これまでも、筑摩書房編集委員会では、単なる古文の学習にとどまらず、日本古典の世界を深く広く把握できるように教材書作りをおこなってきたが、そうした革新の伝統を受け継ぎながら、生徒たちが豊かな古典の世界に分け入る良質の手引きを作ることができたと確信している。



山形大学教授 三上英司(漢文編)

揺るがないことばに触れる機会を作りたい、『古典探究 漢文編 改訂版』の作成に携わった者一同の思いは、ここにあります。目前の要求に右往左往する度合いが増加する現代社会で、自らの精神的安定を確保して豊かな人生を送るためには、確固たる自我を構築しなければなりません。二千年を超える時代の変化にも流されず、現代に普遍的な真理を伝えることばたちは、自己を形成する途上にある高校生にとって、自らを映し出す明鏡となり、自らの航路を確認する灯台ともなります。古典文学の役割が現代以上に重要性を持った時代は、おそらくこれまでなかったでしょう。本教科書では、高校生の方々の学びが自覚的に進むように「単元の目標」の項で、具体的にコンピテンシーベースの学習目標を明示しました。そして、目標達成のために各単元に配置した教材群は、奇を衒うことなく、高い評価の定まった「古典中の古典」を選びました。学習者の皆さんが、変転激しい社会でこそ価値を増す揺るがぬことばの力に触れ、自らの感性を広げ、思考力を高め、効果的な表現力を磨く機会として、『古典探究 漢文編 改訂版』を活用してくださることを切望しております。

編集のポイント

- ◎ 古典を学ぶにあたって必須の教材を柱とし、さらに探究を深める工夫を凝らしました。
- ◎ 生徒の興味関心を広げ、先生方の教材選択の幅を広げるために、豊富な教材数を収録しました。

教材の特徴

- ① 使いやすい古文編・漢文編の分冊構成。
- ② 古文編は第一部(9単元・散文49教材・和歌39首・連歌8句・発句12句)、第二部(10単元・散文40教材)、漢文編は第一部(7単元・散文22教材・漢詩12首)、第二部(7単元・散文25教材・漢詩8首)と充実のラインナップ。

授業を支える工夫

- ① 「第一部」「第二部」の冒頭に学びの見通しを立てるために役立つ「単元の目標」と教材ごとの「視点」を提示。
- ② 教材ごとに学びを深める「理解」と「表現」を提示。
- ③ 比べ読みの練習に、「参考」の文章を適宜掲載。
- ④ 主体的な学びを支える「実践」を適宜掲載。



古典探究 改訂版 編集委員

- | | |
|------|------------------|
| 東 俊也 | 武蔵高等学校中学校教諭 |
| 井島正博 | 東京大学名誉教授 |
| 大橋賢一 | 北海道教育大学旭川校教諭 |
| 小田健太 | 早稲田大学高等学院教諭 |
| 木下華子 | 東京大学准教授 |
| 高田祐彦 | 青山学院大学教授 |
| 千野浩一 | 筑波大学附属駒場中・高等学校教諭 |
| 三上英司 | 山形大学教授 |
| 吉田幹生 | 成蹊大学教授 |

◎ 古文教材は、第一部9単元・散文49教材・和歌39首・連歌8句・発句12句。
◎ スタンダードな教材をバランスよく配置。

古文編……第一部

単元の目標……………10

第1章・生き生きと描かれた人々・説話

- 宇治拾遺物語 袴垂、保昌にあふこと(巻第二)……………12
- 狷師、仏を射ること(巻第八)……………15
- 古今著聞集 刑部卿敦兼の北の方(巻第八)……………18

第2章・歌に思いを託す・物語(一)

- 伊勢物語 初冠(第一段)……………20
- 月やあらぬ(第四段)……………22
- 行く虫(第四五段)……………24
- 狩りの使ひ(第六九段)……………25
- 渚の院(第八二段)……………28
- 小野の雪(第八三段)……………31
- とみの文(第八四段)……………33
- つひにゆく(第二二五段)……………34
- 大和物語 姨捨(第一五六段)……………35
- 鹿の声(第一五八段)……………38

第3章・豊かな感受性、深まる思考・随筆(一)

- 枕草子(一) 春は、あけぼの(第二段)……………40
- 野分のまたの日こそ(第一八九段)……………41
- 文ことばなめき人こそ(第二四四段)……………42
- 世の中になほ
- いと心憂きものは(第二四九段)……………43
- すさまじきもの(第三三段)……………44
- 中納言参りたまひて(第九八段)……………46
- 二月つごもりごろに(第一〇二段)……………47
- コラム敬語法……………49

第4章・人と人とが織りなす世界・物語(二)

- 堤中納言物語 虫めづる姫君……………50
- 落窪物語 落窪の君(巻の二)……………54
- 源氏物語(一) 光源氏の誕生(桐壺巻)……………58
- 飽かぬ別れ(桐壺巻)……………62
- 廃院の怪(夕顔巻)……………65
- 若紫の君(若紫巻)……………69

第7章・歴史を語る・物語(三)

- 大鏡(一) 雲林院にて(序)……………100
- 花山院の出家(花山院)……………103
- 公任、三船の誉れ(頼忠)……………107
- 南の院の競射(道長上)……………109
- 平家物語 忠度の都落ち(巻第七)……………111
- 能登殿の最期(巻第一)……………115
- 太平記 千早城の戦い(巻第七)……………119

第8章・身体とことば・芸能

- 風姿花伝 二十四、五……………122
- 難波土産 虚実皮膜の間……………124
- 謡曲 忠度……………126
- 実践 芸能の中に生きる古典文学を味わおう……………129
- コラム日本の芸能……………130

第9章・定型の力・和歌・歌謡・連歌・俳諧

- 万葉の歌……………132
- 王朝の歌……………135
- 中世の歌……………140
- 水無瀬三吟百韻 表八句……………146
- 近世の句……………148
- おらが春 愛児さと……………150

新

古文の理解を深める探究活動例としての「実践」。

古文の理解を深めるコラム。

長さも、難易度においてもバラエティ豊かな教材を多数収録。



古文編……第二部

単元の目標……………154

第1章◆市井の人々の姿◆説話

今昔物語集 鷲にさらわれた赤子(巻第二六)……………156
賀茂の祭りを見物する翁(巻第三二)……………159

第4章◆自己を語る◆日記

紫式部日記 土御門殿の秋……………208
和泉式部と清少納言……………210
和泉式部日記 夢よりもはかなき世の中を……………212
建礼門院石京大夫集 なべて世の……………215
十六夜日記 関の藤川……………217

第2章◆宮廷社会に生きる◆随筆

枕草子(二) 里にまかでたるに(第八〇段)……………162
上にさぶらふ御猫は(第七段)……………165

第5章◆文学を論じる◆評論(一)

袋草紙 すき者たち……………220
俊頼髓脳 雨の名……………222
無名抄 おもて歌……………224
毎月抄 心と詞……………226
無名草子 紫式部……………228

第3章◆長編の魅力◆物語(一)

源氏物語(二) 車争ひ(葵巻)……………170
心づくしの秋(須磨巻)……………174
母子の別離(薄雲巻)……………179
暁の雪(若菜上巻)……………182
萩のうは露(御法巻)……………188
霧の中のかいま見(橋姫巻)……………192
髪の香(総角巻)……………195
『源氏物語』の虚構 鈴木日出男……………200

『源氏物語』の解釈に踏み込んだ現代評論。

第6章◆歴史を紡ぐ◆物語(二)

大鏡(二) 菅公配流(時平)……………230
宣耀殿の女御(師尹)……………235
中宮安子の嫉妬(師輔)……………237
肝試し(道長上)……………240
道長、栄華への第一歩(道長上)……………244
後鳥羽院(第一「おどろのした」)……………248
増鏡 隠岐配流(第二「新島守」)……………250

第8章◆近世の社会と人間◆小説

西鶴諸国ばなし 忍び扇の長歌(巻四)……………262
雨月物語 浅茅が宿(巻の二)……………266
「コラム」近世のことは……………271

第9章◆本質を探る◆評論(二)

三冊子 不易流行……………272
玉勝間 師の説になづまざること……………274
源氏物語玉の小櫛 もののあはれ論……………277

第10章◆文学の生まれる場所◆伝承

野ざらし紀行 千里に旅立ちて……………252
去来抄 行く春を……………254
岩鼻や……………256
いそのはな 北寿老仙をいたむ……………258
鶴衣 奈良団扇……………260
古事記 倭建命(中巻)……………280
〔参考〕日本武尊の死(日本書紀)……………285
〔実践〕二つの伝承を読み比べて、
表現の違いについて考えよう……………287
〔まとめ〕古文の表現……………288
読書案内……………294
「コラム」上代のことば……………293

比べ読みに最適な【参考】教材。

「古典常識」装束・乗り物……………296
住居・調度……………298
官職と位階……………299
暦法……………300

古典文法要覧……………302
古語の理解……………306
日本古典文学史……………312
『源氏物語』年立……………316
皇室・藤原氏略系図……………319

◎単元の目標

生徒一人一人が単元のねらいを理解することで、主体的に目的をもって学べるよう、単元ごとに「単元の目標」を示しています。

単元の目標

各単元の「目標」を第一部・第二部の冒頭に提示しました。単元ごとの学びの見通しに役立ちます。

単元の目標

この教科書は、それぞれの章に次のような学習目標があります。学習目標に注意して、見通しを持って学びましょう。

第1章 生き生きと描かれた人々——説話

▼目標：話の展開を捉え、登場人物の心情を理解する

説話は、古典作品の中でも比較的短くまとまった文章で話が展開する。テンポの良い語り口による話を的確に読み取り、説話の面白さを味わいたい。登場人物の心情や思考を理解することで、現代にも共通する人々の姿勢や考え方に触れられるだろう。

第2章 歌に思いを託す——物語（一）

▼目標：歌物語の表現の特徴を理解し、物語を解釈する

歌物語は、和歌を中心に構成された物語である。和歌がよみだされるまでの物語の展開や心情の推移に注意して、和歌に込められた登場人物の心情を読み取っていく。物語における和歌の役割にも注意しよう。

第3章 豊かな感受性、深まる思考——随筆（一）

▼目標：作者の考え方や自然観に触れる

古典作品の作者は、どのような時代に、どのような生活を送り、どのようなことを考えていたのだろうか。そこには時代特有の考え方もあるだろうし、現代の私たちも共感できる普遍的なものもあるだろう。自然との付き合い方、周囲の人間関係など、作者の暮らしぶりを思い浮かべながら、作者の主張を読み取ろう。

第4章 人と人々が織りなす世界——物語（二）

▼目標：多様な人間関係と物語の展開を読み取る

作り物語では、多様な人間関係によってさまざまな物語世界が作られる。短編・中編・長編、それぞれの特徴を持つ物語世界の構成や展開などを的確に捉え、作品成立の背景や作品相互の関係なども踏まえながら、内容の解釈を深めよう。

第5章 体験を語る——日記

▼目標：作品に表現された心情を読み取る

平安時代の日記文学では、経験した出来事を語る中に、作者の人生が描き出されている。語られた出来事は作者にとってどのような意味を持っていたのだろうか。登場する人物は作者にとってどのような存在だったのだろうか。それらのことに留意し、作者の心情を読み取ろう。

第6章 人と社会を見つめる——随筆（二）

▼目標：時代背景とともに作者の論理・思考を読み取る

平安時代末から鎌倉時代・南北朝・室町時代は、多くの戦乱と社会変化に直面した変革の時代であった。その中を生きる人々の思索を、私たちは古典の随筆に見ることが出来る。危機に向き合い、変化を受けとめ、乗りこえる人々のことばを味わい、私たちのものの見方・考え方を見つめ直そう。

第7章 歴史を語る——物語（三）

▼目標：歴史的な事実と比較しながら、物語を解釈する

第8章 身体とことば——芸能

▼目標：現代に生きる古典芸能の姿と普遍性を理解する

能・狂言・人形浄瑠璃・歌舞伎などの古典芸能は、身体動作・声・音楽といった、本来ことばでは記せないものを核とする。役者の動きと舞台のありさまは瞬間のうちに変化するが、その中から変わらぬ本質をつかみ、ことばで表現する人々の姿勢・考え方を捉え、現代に通じる価値観を理解しよう。

第9章 定型の力——和歌・歌謡・連歌・俳諧

▼目標：韻文の表現の特色と歴史について理解を深める

和歌や俳諧は、散文とは異なり、短い定型の中に思いを凝縮させる韻文である。そのために、長い歴史の中でさまざまな表現の工夫が凝らされてきた。作品の成立した時代背景や作品相互の関係を踏まえながら、定型の「かたち」に込められた思いを味わい、理解を深めよう。

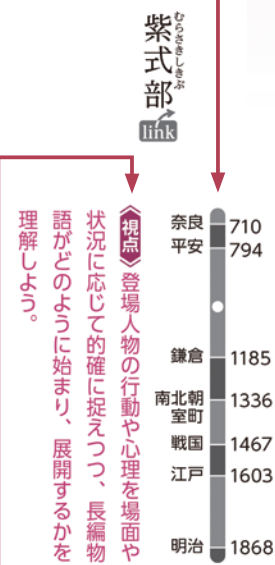
第4章

源氏物語(一)

光源氏の誕生

年表

作品の書かれた時代を年表で分かりやすく示しました。



第4章 人と人が織りなす世界—物語(二)……

1 いづれの御時にか、女御・更衣あまたさぶらひたまひける中に、いとやむごとなききはあらぬが、すぐれて時めきたまふありけり。初めよりわれはと思ひあがりたまへる御方々、めざましきものにおとしめ嫉みたまふ。同じほど、それより下臈の更衣たちは、ましてやすからず。朝夕の宮仕へにつけても、人の心をもみ動かし、恨みを負ふつもりにやありけむ、いとあつしくなりゆき、もの心細げに里がちなるを、いよいよ飽かずあはれなるものと思ほして、人のそしりをもえ憚らせたまはず、世のためしにもなりぬべき御もてなしなり。上達部・上人なども、あいなく目をそばめつつ、いとまばゆき人の御おぼえなり。唐土にも、かかる事の起こりにこそ、世も乱れ悪しかりければ、やうやう天の下にも、あぢきなう人のもてなやみぐさになりて、

- 1 いづれの御時にか どの(帝の)御代であつたらうか。
- 2 女御・更衣 「女御」は、皇后・中宮に次ぎ、「更衣」は、女御に次ぐ地位の、天皇の夫人。
- 3 めざましきもの 目にあまる者。
- 4 上達部 公卿。三位以上の者と四位の参議。
- 5 上人 殿上人。四位・五位の者の一部、および六位の藏人で、清凉殿の殿上の間に昇ることを許された人。

視点

身につけたい資質・能力について、学びの見通しを立てやすくするため、すべての教材の冒頭に掲載しています。

楊貴妃のためしも引き出でつべくなりゆくに、いとはしたなきこと多かれど、かたじけなき御心ばへのたくひなきを頼みにてまじらひたまふ。

父の大納言は亡くなりて、母北の方なむ、いにしへの人のよしあるにて、親うち具し、さしあたりて世のおぼえ華やかなる御方々にもいたう劣らず、何事の儀式をもてなしたまひけれど、とりたてて、はかばかしき後見しなければ、事ある時は、なほ抛りどころなく心細げなり。

前の世にも、御契りや深かりけむ、世になくきよなる玉の男皇子さへ生まれたまひぬ。いつしかと心もとながらせたまひて、急ぎ参らせて御覧するに、めづらかなるちこの御容貌なり。一の皇子は、右大臣の女御の御腹にて、よせ重く、疑ひなきまうけの君と、世にもてかしづききこゆれど、この御にほひには並びたまふべくもあらざりければ、おほかたのやむごとなき御思ひにて、この君をば、私物に思ほしかしづきたまふこと限りなし。

- 6 あいなく 困ったことに。
- 7 人の御おぼえ 更衣に対する(帝の)ご寵愛。「人」は、更衣をさす。
- 8 楊貴妃 唐の玄宗皇帝の寵妃。玄宗は楊貴妃を寵愛するあまり、国政を顧みず、安祿山らの反乱を招いた。
- 9 いにしへの人のよしある 古い家柄の出で、教養ある人。
- 10 一の皇子 第一皇子。のちの朱雀帝。
- 11 右大臣の女御 右大臣の娘である女御。弘徽殿女御。
- 12 よせ重く 後見がしっかりして。
- 13 まうけの君 皇太子。
- 14 私物 かわいい秘蔵っ子。
- 15 上宮仕へ 天皇のそばに任えて日常の用をつとめること。
- 16 上衆めかしけれど 高貴な人らしく見えるが。

脚注

文章を理解する上で必要な情報を掲載。

初めよりおしなべての上宮仕へしたまふべききはあらざりき。おぼえいとやむごとなく、上衆めかしけれど、わりなくまつはさせたまふあまりに、さるべき御遊びのをりをり、何事にもゆゑあることこのふしぶしには、まづまう上らせたまふ、ある時には大殿籠もり過ぐして、やがてさぶらはせたまひなど、あながちに御前去らずもてなさせたまひしほどに、おのづから軽き方

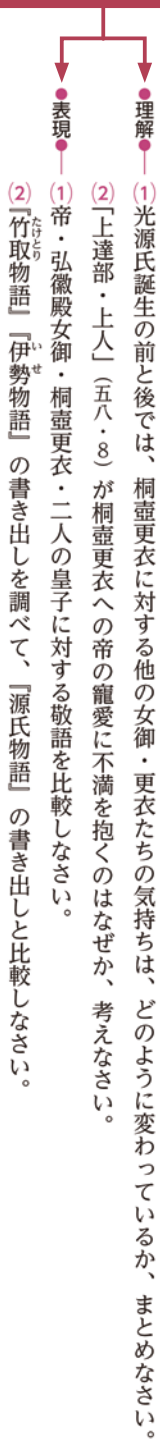
- * やむごとなし * きは
- * めざまし * あつし * あいなし
- * まばゆし * あぢきなし
- * はしたなし * かたじけなし
- * きよらなり * 心もとながる
- * にほひ * わりなし * やがて
- * あながちなり

重要古語

古文の重要語を本文中に*印で示し、見開きごとに整理しました。

学習の手引き

「理解」「表現」の二項目に分けて、本文の理解を助けます。



……源氏物語 (一)

人の御心を尽くしたまふもげにことわりと見えたり。参^まり上^{のぼ}りたまふにも、あまりうちしきるをりをりは、打橋²¹、渡殿²²のここかしこの道²³にあやしきわざをしつつ、御送り迎への人の衣^{きぬ}の裾^{すそ}たへがたくまきなきこともあり、また、ある時には、え避^さらぬ馬道²⁴の戸^{かど}を鎖^{かざ}しこめ、こなたかなた心を合^あはせてはしたなめわづらはせたまふ時も多かり。事にふれて、数知らず苦しきことのみまされば、いといたう思ひわびたるをいとどあはれと御覽^みじて、後涼殿²⁵にもとよりさぶらひたまふ更衣の曹司^{ざうし}をほかに移^{うつ}させたまひて、上局²⁶に賜^{たま}はず。その恨みましてやらむ方なし。

(桐壺巻)

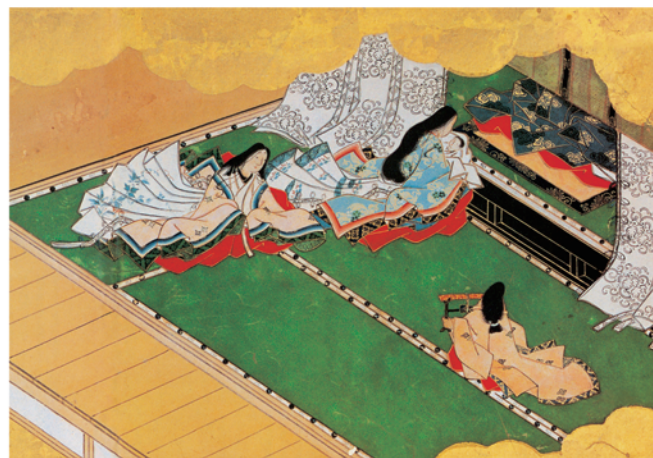
5

21 打橋 建物と建物との間の橋。
 22 渡殿 建物と建物をつなぐ屋根つき
 の廊下。
 23 あやしきわざ 汚物をまき散らしたり
 することという。
 24 馬道 建物の中を貫く板敷きの廊下。
 25 後涼殿 清涼殿の西隣にある御殿。
 26 上局 清涼殿の、中宮・女御などが帝
 に伺候するときの控えの間。後涼殿に
 上局を賜るのは異例の措置。

— * おきつ

図版

本文の理解の助けとなるようなカラー図版を適宜挿入。



帝と皇子の対面 (「源氏物語図屏風」狩野氏信筆)

めたまふ人は多く、わが身はか弱くものはかなきありさまにて、なかなか
 るもの思ひをぞしたまふ。
 御局^{みづね}は桐壺^{きりぎりす}なり。あまたの御方々^{みかた々々}を過ぎさせたまひて隙^{ひま}なき御前^{みまへ}渡りに、

15

18 かしこき御かけ 畏れ多い御庇護。
 19 桐壺 後宮五舎の一つ。注25とともに、
 後ろ見返しを参照。「壺」は、中庭。
 桐が植えてあるので「桐壺」という。
 この局の名から、桐壺更衣と呼ばれる。
 20 御前渡り 素通りすること。遠くの更
 衣を訪れる帝が、女御・更衣の局々の
 前を素通りする。

にも見えしを、この皇子生まれ
 たまひてのちは、いと心ことに
 思ほしおきてたれば、坊¹⁷にも、
 ようせずは、この皇子のゐたま
 ふべきなめりと、一の皇子の女
 御はおぼし疑へり。人より先に
 参りたまひて、やむごとなき御
 思ひなべてならず、皇女^{みこ}たちな
 どもおはしませば、この御方の
 御いさめをのみぞ、なほわづら
 はしう、心苦しう思ひきこえさ
 せたまひける。
 かしこき御かけをば頼みきこ
 えながら、おとしめ、きずを求

10

2 「この御方」とは誰か。

17 坊 東宮御所。ここでは、皇太子。

第4章 人と人が織りなす世界——物語 (二) ……

大鏡(一)

雲林院にて

先つころ、雲林院の菩提講に詣でてはべりしかば、例の人よりはこよなう年老い、うたてげなる翁二人、嬭と行きあひて、同じ所にゐぬめり。あはれに同じやうなる者のさまかなと見はべりしに、これらうち笑ひ見かはして言ふやう、世継「年ごろ、昔の人に對面して、いかで世の中の見聞くことをも聞こえ合はせむ、このただ今の入道殿下の御ありさまを申し合はせばやと思ふに、あはれにうれしくも会ひまうしたるかな。今ぞ心やすく黄泉路もまかるべき。おぼしきこと言はぬは、げにぞ腹ふくるる心地しける。かかればこそ、昔の人は、もの言はまほしくなれば、穴を掘りては言ひ入れはべりけめ、とおぼえはべり。返す返すうれしく對面したるかな。さても、幾つになりたまひぬる。」と言へば、今ひとりの翁、繁樹「幾つといふこと、さらに

本文フォント

読みやすさに配慮したユニバーサルデザインフォントを採用しています。



雲林院の菩提講(「大かみ絵詞」)

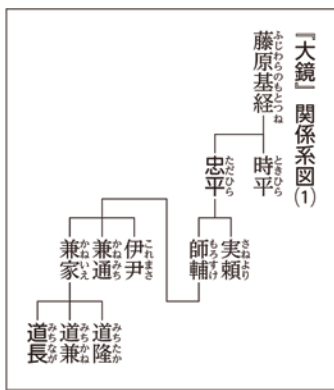
おぼえはべらず。ただし、おのれは、故太政大臣貞信公、藏人の少将と申し折の小舎人童、大犬丸ぞかし。主は、その御時の母后の宮の御方の召し使ひ、高名の大宅世継とぞ言ひはべりしかしな。されば、主の御年は、おのれにはこよなくまさりたまへらむかし。みづからが小童にてありし時、主は二十五、六ばかりの男にてこそはいませしか。」と言ふめれば、世継、「しかしか、さはべりしことなり。さても、主の御名はいかにぞや。」と言ふめれば、繁樹「太政大臣殿にて元服つかまつりし時、『きむぢが姓は何ぞ。』と仰せられしかば、『夏山となむ申す。』と申ししを、やがて繁樹となむ付けさせたまへりし。」など言ふに、いとあさましうなりぬ。

誰も、少しよろしき者どもは、見おこせ、居寄りなどしけり。年

link



【視点】文章の構成や展開に注目するとともに、登場人物の思惑を読み取りながらエピソードの面白さを味わおう。



- 1 雲林院 現在の京都市北区紫野にあった寺。
- 2 菩提講 極楽往生を願い、「法華経」を講説する法会。雲林院では毎年五月に開かれた。ここは、万寿二(一〇二五)年のそれによつたとする説が有力。
- 3 入道殿下 藤原道長 九六六一—一〇二

15

10

5

10

5

* うたてげなり * やがて
* あさまし

9 きむぢ 二人称代名詞。おまえ。

- 7年。「入道」は、出家した者のこと。道長は寛仁三(一〇一九)年に出家した。摂政であつたので「殿下」という。
- 4 黄泉路 あの世界(死後の世界)への道。
- 5 貞信公 藤原忠平、八八〇—九四九年。「貞信公」は、諡号。
- 6 藏人の少将 藏人で、近衛の少将を兼ねた者。
- 7 小舎人童 近衛の中・少将などが召し使う少年。
- 8 母后の宮 宇多天皇の母、班子女王。

……大鏡(一)

第7章 歴史を語る——物語(三) ……

link マーク

link マークのある教材は、インターネット上に参考資料があります。教科書「凡例」ページの二次元コードもしくはURLを開くと、小社ホームページの「参考資料一覧」に遷移し、各種参考資料へのリンクが掲載されています。



第10章 文学の生まれる場所―伝承

古事記

倭建命

しかして、天皇また頻きて倭建命にのらし、つこの道の荒ぶる神、またまつろはぬ人どもをこと吉備の臣らが祖、名は御祖友耳建日子をそへて遺尋矛をたまひき。かれ、命を受けてまかりいでま宮に参入りて、神の朝廷を拜みて、すなはちそしく、天皇、すでに我を死ねと思はずゆゑにか人どもを撃ちに遣はして、返り参上り来し間、いくさ人らをたまはず、今さらに東の方十あまり平らげに遣はすらむ。これによりて思はば、なほすぞ。」と、うれへ泣きてまかります時に、倭比



第10章 文学の生まれる場所―伝承……

【参考】日本武尊の死

能褒野に至りて、痛みたまふこと甚だし。すなはち俤にせる蝦夷どもをもちて、神宮に献る。よりに吉備武彦を遣はして、天皇に奏して申したまはく、「臣、命を天朝に承りて、遠く東の夷を征つ。すなはち神の恩を被り、皇の威に頼りて、叛ける者、罪に伏ひ、荒ぶる神自づからに調びぬ。こをもちて、甲を巻き文ををさめ、懺悔して帰れり。願はくは、いづれの日いづれの時にか、天朝に復命さむと。しかるに天命たちまちに至り、隙驕止めかたし。こをもちて、独り荒野に臥し、誰に語らむこともなし。あに身の亡せなむことを惜しまむや。またたりつかへまつらずなりぬることのみ。」と申したまふ。すでにして能褒野に崩ります。時に年三十なり。天皇聞こしめして、寝席安からず、食味うまからず、昼夜にむせひて、泣き悲しび御胸打ちたまふ。すなはち群卿たちに詔し「百寮に命せて、よりに伊勢国の能褒野の

【日本書紀】

- 1 能褒野 二八三ページ注34を参照。
2 俤 捕虜。
3 蝦夷 二八二ページ注23を参照。
4 神宮 伊勢神宮。
5 吉備武彦 日本武尊に従っていた従者。
6 天皇 額行天皇。
7 調びぬ 従った。調ぶは、なれ親しむ。
8 こをもちて それで。
9 懺悔して 心安らいで、遠征が終わって、ほっとしたということ。
10 隙驕止めかたし 余命いくばくもない。「隙」は、四頭立ての馬車。その隙が隙間を通り過ぎていくのは停めることが難しいということ、人の命のはかなさをたとえる。
11 あに身の亡せなむことを惜しまむや どうして我が身が亡ぶことを惜しもうか、いや惜しまない。「あに」は反語。
12 まなたりつかへまつらずなりぬること 父君の御前にお仕えできなくなってしまうこと。
13 崩ります お亡くなりになる。
14 寝席安からず 安らかに眠れず。
15 胸を打って悲しまれる。
16 百寮 多くの役人。

……古事記・【参考】日本武尊の死

ヤマトタケルの死を伝える伝承を、『古事記』と『日本書紀』からそれぞれ読み、表現の違いについて考える「実践」活動です。

実践：二つの伝承を読み比べて、表現の違いについて考えよう

口頭で語り伝えられてきた伝承は、書き留められることで作品内に定着する。その際、基本的なストーリーは踏まえながらも、作品成立の事情に従って、伝承に手が加えられることがある。二つの伝承の違いに注目することで、『古事記』『日本書紀』それぞれの論理を考えてみよう。

レッスン

ヤマトタケルの死にまつわる伝承を比較しよう

- 1 ヤマトタケルの死にまつわる伝承について、『古事記』(二八〇ページ)と『日本書紀』(二八五ページ)を比較して、異なる点を見つけよう。
2 ①の点に注意しながら、ヤマトタケルの死の場面から受ける印象について、『古事記』と『日本書紀』とでは、どのように違うのか考えてみよう。
3 『古事記』と『日本書紀』は、それぞれヤマトタケルの死をどのように位置づけようとしているのか、話し合ってみよう。

アドバイス

最初に共通する要素を確認しておく、異なる点を

見つけやすくなる。

一方には書かれていて、一方には書かれていない場面がある、ということだけでなく、その場面が書かれなかった代わりに詳しく表現されていることがないか、注目してみよう。

説明する際には、『古事記』と『日本書紀』の相違点が的確に伝わるような表現を選ぼう。

発展

ヤマトタケルの死にまつわる伝承以外にも、『古事記』と『日本書紀』とで位置づけ方の異なる場面はないか、探してみよう。そのうえで、『古事記』と『日本書紀』の作品としての違いについて考え、レポートにまとめてみよう。

……実践 二つの伝承を読み比べて、表現の違いについて考えよう

『日本書紀』から、『古事記』の教材と同じ場面を描いた箇所を「参考」として採録。

古典探究

改訂版

漢文編……目次

◎漢文教材は、第一部7単元、散文22教材、漢詩12首。
◎スタンダードな教材を、バランスよく配列。

漢文編……第一部

単元の目標……10

第1章・創成と典故・故事成語

新 画竜点睛 〈歴代名画記〉……12

新 漱石枕流 〈世説新語〉……13

知音 〈呂氏春秋〉……14

新 病人膏肓 〈春秋左氏伝〉……15

曳尾於塗中 〈莊子・秋水〉……17

先從隗始 〈戦国策〉……18

第3章・韻文の表現・近体詩

独坐敬亭山 李白……30

登樂遊原 李商隱……30

九月九日憶山東兄弟 王維……31

芙蓉樓送辛漸 王昌齡……31

楓橋夜泊 張繼……31

野望 王績……32

旅夜書懷 杜甫……32

新 出頽口初見淮山、 蘇軾……33

是日至壽州 陸游……34

遊山西村 菅原道真……36

聞旅雁 新井白石……36

即事 夏目漱石……37

無題

第2章・生き方の表明・文章(一)

漁父辭 屈原〈楚辭〉……20

桃花源記 陶淵明〈陶淵明集〉……23

春夜宴桃李園序 李白〈古文真宝・後集〉……27

新 出頽口初見淮山、

蘇軾……33

陸游……34

菅原道真……36

新井白石……36

夏目漱石……37

第4章・言動の記録・史伝

鴻門之会 司馬遷〈史記(一)項羽本紀〉……38

四面楚歌 司馬遷〈史記(二)項羽本紀〉……47

稲葉一徹 大槻磐溪〈近古史談〉……51

コラム中国の史書……53

第6章・説得の技法・文章(二)

師説 韓愈〈唐宋八家文読本〉……62

捕蛇者説 柳宗元〈唐宋八家文読本〉……66

愛蓮説 周敦頤〈古文真宝・後集〉……70

第5章・物語の創造・小説

鶴之報恩 干宝〈搜神記〉……54

売鬼 干宝〈搜神記〉……54

王昭君 〈西京雜記〉……57

〈参考〉王昭君(李白)・王昭君(大江朝綱)・

王昭君をよめる(赤染衛門)……59

実践 同じテーマの作品を比較し、
それぞれの特徴を理解しよう……60

第7章・読み継がれる思想・儒家

論語 三章 〈論語〉……72

人無有_レ不_レ善 〈孟子〉……76

四端 〈孟子〉……78

性悪 〈荀子〉……81

コラム性善説と性悪説……83

読書案内……84

比べ読みに最適な【参考】教材。

漢文学習に必要な知識を【コラム】として掲載しました。

扱いやすい短めの教材。

長さも、難易度においても、バラエティ豊かな教材を掲載。

古典探究

改訂版

漢文編……目次

◎第二部7単元、散文25教材・漢詩8首。

漢文編……第二部

単元の目標……………86

第1章・評価する視点・故事成語

- 断腸 〈世説新語〉……………88
- 螳螂之斧 二編 〈莊子・淮南子〉……………89
- 愚公移山 〈列子〉……………91

第3章・韻文の伝統・古体詩

- 桃夭 〈詩経〉……………106
- 秋風辞 漢・武帝……………107
- 薤露 〈樂府詩集〉……………108
- 飲酒 其五 陶淵明……………108
- 送別 王維……………109
- 漁翁 柳宗元……………109
- 石壕吏 杜甫……………110
- 長恨歌 白居易……………113
- 〈コラム〉漢詩のきまり……………119

第2章・主張と文体・文章(一)

- 詩経大序 〈詩経〉……………94
- 〈参考〉古今和歌集真名序(紀淑望)……………96
- 実践 文学論を比較し、共通点や相違点を論述しよう……………97
- 論文 曹丕〈文選〉……………98
- 五柳先生伝 陶淵明〈陶淵明集〉……………100
- 前赤壁賦 蘇軾〈古文真宝・後集〉……………102

第4章・言動の真意・史伝

- 怒髪上衝冠 司馬遷 〈史記(二)廉頗藺相如列伝〉……………120
- 刎頸之交 〈史記(二)廉頗藺相如列伝〉……………127
- 〈参考〉「廉頗藺相如列伝」論贊……………129
- 国士無双 〈史記(二)淮陰侯列伝〉……………130
- 信玄何在 頼山陽〈日本外史・足利氏後記〉……………136
- 〈コラム〉日本人の漢文……………139

第6章・心情の表出・文章(二)

- 前出師表 諸葛亮〈古文真宝・後集〉……………152
- 与「微之」書 白居易〈白氏文集〉……………155
- 傷仲永 王安石〈臨川先生文集〉……………161

第5章・物語の展開・小説

- 離魂記 陳玄祐〈太平広記〉……………140
- 人面桃花 孟棨〈本事詩〉……………144
- 杜子春 李復言〈太平広記〉……………147
- 〈参考〉「杜子春」抄 芥川龍之介……………149
- 実践 翻案による新たな世界観の創造を
確認しよう……………151

第7章・思想の展開・諸子

- 無之用 〈老子〉……………164
- 柔之勝剛 〈老子〉……………164
- 渾沌 〈莊子〉……………166
- 無用之用 〈莊子〉……………167
- 守業 〈韓非子〉……………168
- 嬰逆鱗 〈韓非子〉……………169
- 兼愛 〈墨子〉……………170
- 言と黙 興膳 宏……………172
- 〈コラム〉諸子百家……………180

送り仮名のきまり……………182

漢語の理解……………184

主な漢文句法……………186

中国文化史……………後ろ口絵

古典を扱った近代以降の文章。

入試頻出文章教材。

漢文を身近なものとする探究活動例としての「実践」

基礎から応用まで、入試対策にも最適な教材を多数掲載。



◎単元の目標

生徒一人一人が単元のねらいを理解することで、主体的に目的をもって学べるよう、単元ごとに「単元の目標」を示しています。

単元の目標

各単元の「目標」を第一部・第二部の冒頭に提示しました。単元ごとの学びの見通しに役立ちます。

単元の目標

この教科書は、それぞれの章に次のような学習目標があります。学習目標に注意して、見通しを持って学びましょう。

第1章 創成と典故——故事成語

▼目標：新たな表現を支える典故の力を理解する

ことばが意思伝達の役割を持つ以上、認識を他者と共有できる情報を持たない限り、伝達機能は働かない。古典は、時代を超えて今に生きる共有情報である。典故（典拠となる故事）をもとに生成されたことばの真意を理解しよう。

第2章 生き方の表明——文章（一）

▼目標：言語表現に託された生き方の表明を読み取る

ことばは、自己の意思を確認する役割も果たしている。自らの思いを表明しながら、同時に確認して心に刻んでいるのだ。古典作品に示される人生観は、時代の制約を超えた普遍性を持つがゆえに、長く読み継がれてきた。作者がことばに託して表現した生き方を、今後の自分が歩むべき道と比較しながら、しっかりと読み取ろう。

第3章 韻文の表現——近体詩

▼目標：景情一致の技法を理解する

自分の心情を的確に表現するための技法の一つに「景情一致」がある。目に映る景色に自身の感情や思いを託すことで、他者と心情を共有する技法である。無駄のない、音律の整ったことばで表現されている近体詩の名品を、読解することにより、他者の心情を理解し、想像する力を磨こう。

第4章 言動の記録——史伝

▼目標：言動の記録をたどり、人物像を捉える

史伝は、人の行動やことばを記録し、後世に伝え続けてきた。これらの文章は、単なる歴史的事実の記録という枠から離れ、時空を超えて読む者の脳裏に人物像を生きた生きと形作る。発言や行動を通して人物の心情を理解する力を養おう。

第5章 物語の創造——小説

▼目標：作品を正確に読み取り、その構成を分析し、表現効果を理解する

小説はことばで物語の世界を構築し、読み手の興味をかき立てながらクライマックスへと導く。この章では、比較的短い小説を読んで構成の工夫を理解しよう。また、その表現効果を確認し、同じ素材を用いた詩歌などと比較しながら、それらの構成を分析しよう。併せてストーリーを組み立て、自らことばを紡いで、創作活動をしてみよう。

第6章 説得の技法——文章（二）

▼目標：典故や比喩に託された主張を読み取る

説得力を高める表現技巧の一つに、典故の使用や比喩がある。これは、故事を引用したり一見無関係な他の事物に仮託したりして、自分の主張の核心を相手に実感させる表現方法である。この章では、典故や比喩の表現技巧を駆使した文種である「説」の読解を通し、表現者の意図を正確に把握する力を高めよう。

第7章 読み継がれる思想——儒家

▼目標：普遍的な人間性を語る論法に触れ、自らの考えを広げる

東アジア漢字文化圏の文化・政治に多大な影響を与えてきた儒家の思想は、他者との共生の重要性を主張してきた。社会の持続的な発展を考える時に儒家的な思考方法が、強力な柱石として機能し続けてきた。孔子という存在を出発点に、それぞれの展開を見せた儒家の言説を読み解き、読み継がれてきたことばの特徴に注目し、豊かな言語生活の基盤を形成しよう。



孔子

『史記』は、主要な場面を中心に収録。リード文や小見出し、豊富な図版によって、読解を助けることができます。

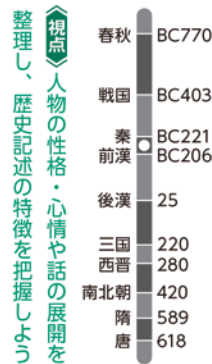
第4章 言動の記録——史伝

史記（一）

鴻門之会

司馬遷

秦の始皇帝嬴政は、乱世を平定し天下を統一したが、始皇帝没後、各地で反乱が起こった。特に楚の項羽（項王）と漢の劉邦（沛公）の二人が勢力を持ち、秦の都・咸陽陥落を目ざして先陣を争った。



〈要点〉人物の性格・心情や話の展開を整理し、歴史記述の特徴を把握しよう。

年表

作品の書かれた時代もしくは場面を年表で分かりやすく示しました。

前後の流れが分かるリード文を適宜挿入。

旧字体

常用漢字体と旧字体（正字）の字画が異なる場合は、初出に旧字体を示しました。

項羽、大いに怒る

楚軍行略定秦地、至函谷関有兵守関。不
 得入。又聞沛公已破咸陽。項羽大怒、使当陽
 君等擊関。項羽遂入、至于戲西。

沛公軍霸上、未得与項羽相見。沛公左司

- 1 略定 攻略し、平定する。
- 2 函谷関 戦国時代に秦が現在の河南省靈宝市の東北に置いた関所。
- 3 沛公 劉邦。後の漢の高祖。字は季。前二四七―前一九五年。沛（現在の江蘇省徐州市沛県）の農民の出身。
- 4 咸陽 現在の陝西省にあった秦の都。
- 5 項羽 項王。前二三三―前二〇二年。姓は項、名は籍。羽は字。下相（現在の江蘇省宿遷市）の楚の將軍家出身。
- 6 当陽君 項羽の配下の武將で、後に劉邦の部下となる英布（黥布）のこと。
- 7 戲西 渭水の支流・戲水の西。現在の陝西省西安市の東方。函谷関の西。
- 8 霸上 鴻門の西を流れる霸水のはより。
- 9 左司馬 武官の官名。

馬曹無傷使人言於項羽曰、沛公欲王関中、
 使子嬰為相、珍宝尽有之。項羽大怒曰、旦日
 饗士卒、為擊破沛公軍。

當是時、項羽兵四十萬、在新豐鴻門。沛公、
 兵十萬、在霸上。范增說項羽曰、沛公居山東、
 時、貪於財貨、好美姬。今入関、財物無所取、婦
 女無所幸。此其志不在小。吾令人望其氣、皆
 為龍虎、成五采。此天子氣也。急擊、勿失！

- 10 曹無傷 劉邦の配下の武將。伝未詳。
- 11 関中 函谷関より西、現在の陝西省一帯の地域。四方を関所に囲まれていたことよる呼び名。秦の根拠地。
- 12 子嬰 ?―前二〇六年。始皇帝の孫。旦日 翌朝。
- 13 旦日 翌朝。
- 14 饗 酒食を供してねぎらう。
- 15 新豐鴻門 現在の陝西省西安市臨潼区の東の地名。
- 16 范增 七十歳で項羽に仕えた老参謀。
- 17 山東 こは、函谷関より東の地。
- 18 幸 寵愛する。
- 19 望其氣 人から立ちのぼる気を見る。
- 20 龍虎 「龍・虎」ともに、天子の象徴。
- 21 成五采 「五采」は、青・赤・黄・白・黒、の五色。天子の瑞祥。

かつて張良に命を助けられたことがあった項羽（項王）の叔父・項伯からの情報により、劉邦（沛公）は自分が厳しい状況に追い込まれたのを知った。項伯のはからいで劉邦は、項羽のもとに釈明に向かった。

- 22 失 取り逃がす。
- 2 范增が「急擊、勿失。」と進言したのはなぜか。
- *使 A (使役)
- *未 B (再読文字・否定)
- *令 A B (使役)
- *勿 C (禁止)

句法のまとめ

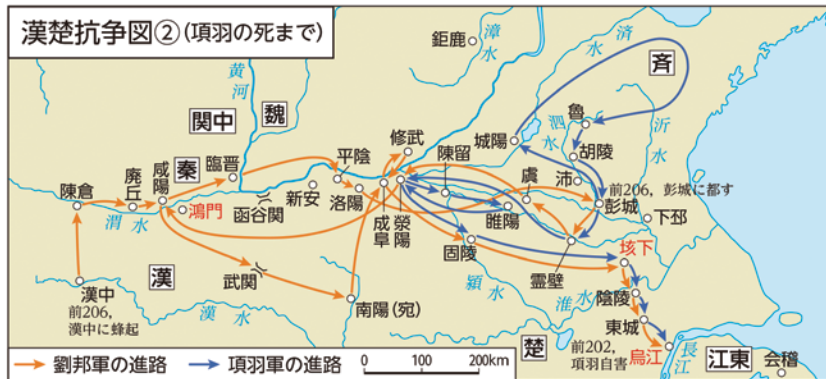
重要な句法を本文中に*印で示し、教材ごとに整理しました。

図版

本文の理解を助ける図版を豊富に掲載しました。



鴻門会(安田毅彦筆)



第4章 言動の記録—史伝—

項伯、剣を抜き起ちて舞う

沛公旦日從二百余騎、來見項王、至鴻門、謝曰、臣与將軍戮力而攻秦、將軍戰河北、臣戰河南、然不自意能先入闕破秦、得復見將軍於此、今者有小人之言、令將軍與臣有郤、項王曰、此沛公左司馬曹無傷言之、不然、籍何以至此、

項王即日、因留沛公与飲、項王、項伯、東嚮坐、亞父南嚮坐、亞父者范增也、沛公北嚮坐、張良西嚮侍、范增數目項王、項王、舉所佩玉玦、以示之者三、項王默然不応、

10

*不_レ然_レ (仮定)
*何以_レ (反語)



玉玦 (西周)

……史記 (一) 鴻門之会

脚問

文脈を理解する上でポイントとなる部分は、簡潔な脚問を通して確認。

23 郤 すきま。みぞ。「隙」と同じ。

24 項伯 ? 前一九二年。項羽の叔父。殺人の罪で逃亡中、張良に助けられた。

25 東嚮 東に向かう。「嚮」は「向」と同じ。当時、東に面するのは上座。

26 亞父 父に次いで尊敬する人。

27 張良 政治家。劉邦の功臣。? 前一九九年。韓の人。始皇帝暗殺に失敗した後、劉邦に仕えた。項伯の命の恩人。

28 玉玦 帯につける飾り玉器。環の一部に切れ目がある。「玦」の音が、決

行・決心の意を示している。

3 この時の座席表を作りなさい。

第5章

王昭君

元帝後宮既多、
不得常見。乃使画
工图形、案图召幸
之。諸宮人皆賂画
工。多者十、少者
亦不減五。万独王
嬙不肯。遂不得見。
匈奴入朝、求美入



王昭君図(菱田春草筆)

- 春秋 BC770
戦国 BC403
前漢 BC221
後漢 BC206
25
220
280
420
589
618
南北朝 隋唐
- 【物語】一つの物語が、どのように受け継がれ、新たな作品が作られるきっかけとなるのかについて考えてみよう。
- 1 元帝 前漢第十代の皇帝。在位 前四九―前三三年。
 - 2 幸 ここは、寵愛する、の意。
 - 3 賂 賄賂を贈る。
 - 4 王嬙 王昭君のこと。嬙は名。昭君は字。生没年未詳。嫁ぎ先で死んだ。
 - 5 肯 よしとする。
 - 6 匈奴 中国北方を根拠地とした遊牧騎馬民族。紀元前三三年、匈奴の王・呼韓邪単于が入朝した。
 - 7 關氏 匈奴の王の正妻。
 - 8 上天子。ここは、元帝のこと。
 - 9 名簿 名簿。
 - 10 窮案 罪状を調べ上げる。
 - 11 棄市 人目につく市中で行われる死刑。

……王昭君

見、貌、
而名、
窮案、
「其事」とは、具体的には何をさすか。
11 棄市 人目につく市中で行われる死刑。
一 * 不復し * (部分否定)

第5章 物語の創造—小説—

「西京雜記」から「王昭君」の物語を読む。図版は、菱田春草。

- 理解 (1)「諸宮人(五七・八)と王昭君の人物像について、それぞれの行動の違いに注意して、話し合いなさい。
 - (2)「挙止閑雅(一五八・九)とあるが、誰の、どのようなようすを描いているか、まとめなさい。
 - 表現 (1)「不得常見(一五七・二)、「不復更人(一五八・三)を、部分否定の用法に注意しながら現代語に訳しなさい。
- 西京雜記 晋代(西晋・二六五―三〇七年)に成立。六卷。前漢の都・長安(現在の陝西省西安市)をめぐる逸話や、漢の宮廷の風俗などを記録した書。編著者未詳。前漢の劉歆(経学者・?―一三三年)の著したものを晋の葛洪(思想家・二八三―三四三年)が編集して編んだとする説もあるが不明。本書からは、梁の殷芸(文人・四七二―五一九年)の「小説(十卷)に多く引用されている。

李白(李白集)

昭君 王昭君
今日漢宮人 明朝胡地妾
翠黛紅顏錦繡粧 泣尋沙塞出家鄉
胡角一聲霜後夢 隴水流添夜淚行
昭君若贈黃金路 定是終身奉帝王

- 1 玉鞍 鞍の名称。
- 2 胡地 匈奴は、北方の遊牧民。ここは、匈奴のいる地。
- 3 翠黛 みどり色のまゆげ。美のまゆ。美人のたとえ。
- 4 錦繡 美しく刺繍した織物で、美しい着飾。
- 5 沙塞 辺境にある砦。
- 6 泣尋 泣きながら探し求める。
- 7 心緒 心持。
- 8 隴水 甘粛省を流れる川。
- 9 胡角 漢の角のすじ。
- 10 胡角 ここは、匈奴の吹く角笛。
- 11 定 きっと。
- 12 なげきこし道の露にもまよりのけりなれにし里を恋ふる涙は

……王昭君

李白、大江朝綱の漢詩、赤染衛門の和歌。

12～13世紀に描かれた「明妃出塞図」。



「明妃出塞図」(12～13世紀 宮業然)

- 「王昭君」をテーマに描かれた絵画を分析してみよう
- 上の絵画は、王昭君の物語を題材として描かれている。「西京雜記」を手掛かりに、どのようなことが描かれているか、話し合ってみよう。
 - 菱田春草の「王昭君図(五七―八)や宮業然の「王昭君(九―一三)と比べて、どのような点が異なっているか、話し合ってみよう。
- 【ポイント】
それぞれの絵画が「王昭君」のどの場面を描いているのか、考えよう。
画家は「王昭君」をどのように解釈して描いたのか、考えよう。
- 【課題】
「王昭君」をテーマに、小説・詩歌・シナリオ・絵画など、自分なりの表現方法で創作活動してみよう。
「王昭君」の他に、文学や芸術の題材となっている漢文作品がないか探し、レポートにまとめてみよう。

——実践 同じテーマの作品を比較し、それぞれの特徴を理解しよう

第5章 物語の創造—小説—

教科書収録教材(現代文)の筆者の大学入試出題状況(一部)

◎『論理国語 改訂版』収録教材の筆者の大学入試出典一覧(一部)

- ドミニク・チェン 「未来を思い出すために」——山梨大
「遠隔でも『共に在る』感覚 入力見えるチャット、関係豊かに」——白百合女子大
- 内田 樹 「修行論」——北海学園大
「サル化する世界」——青山学院大
- 若林幹夫 「社会(学)を読む」——学習院大
- 橋爪大三郎 「正しい本の読み方」——白百合女子大
- 岸 政彦 「はじめての沖縄」——熊本大
- 尹 雄大 「聞くこと、話すこと。人が本当のことを口にするとき」——九州大
- 夏目漱石 虚子著「鶏頭」序——上智大
「子規の画」——東京大
「三四郎」——三重大
- 今福隆太 「宮沢賢治 デクノボーの叢知」——早稲田大・九州大
- 湯浅 誠 「反貧困」——千葉大
- 森本あんり 「異端の時代」——立命館大
- 船木 亨 「現代思想講義」——青山学院大
「蓋然性と言語」——早稲田大
「死の病と生の哲学」——東北学院大
- 杉田 敦 「境界線の政治学」——東北大
- 今井むつみ・秋田喜美 「言語の本質」——慶應大
- 河野哲也 「境界の現象学 始原の海から流体の存在論へ」——センター入試
- 丸山眞男 「陸羯南——人と思想」——早稲田大
- 野家啓一 「物語の哲学」——大阪経済大
「ホモ・ナランスの可能性」——大阪大
- 三木那由他 「言葉だけの場所」——広島大
榎木野衣 「美術 祝祭、狂乱、共闘、流転」——東海大
「感性は感動しない——美術の見方、批評の作法」——神戸学院大
「爆発、丸石神、グラン・ギニョルな未来」——弘前大
- 岩井克人 「二十一世紀の資本主義論」——慶応義塾大
- 坂口安吾 「日本文化私観」——南山大
「恋愛論」——慶應大
- 蓮實重彰 「反II日本語論」——東北学院大
- 福沢諭吉 「人の説を咎む可らざるの論」——橋大
- 若桑みどり 「イメージの歴史」——関西大
- 木村 敏 「時間と自己」——神戸学院大
「自分ということ」——成蹊大
- 佐伯啓思 「脱」戦後のすすめ——同志社女子大
「経済成長主義への決別」——静岡大
- 中井久夫 「笑いの生物を試みる」——南山大
「現代社会に生きること」——京都大
- 寺田寅彦 「化け物の進化」——成城大
「蓄音機」——成蹊大
「案内者」——立教大
- 加藤周一 「明治初期の文体」——早稲田大
「日本文学史序説」——上智大
「科学の方法と文学の擁護」——九州大
- 多和田葉子 「雪の練習生」——神戸親和大
「Hirukoは語る」——琉球大
「ゴットハルト鉄道」——大阪大
- 三島由紀夫 「西洋の庭園と日本の庭園——『仙洞御所』序文」——明治学院大
「陶酔について」——千葉大
「いかにして永生を？」——宇都宮大
「廃墟について」——愛知大
「金閣寺」——福井県立大
- 谷崎潤一郎 「陰翳礼讃」——関東学院大
- 森鷗外 「半日」——宮崎大
- 渡辺一夫 「ある神学者の話」——大分大

◎『文学国語 改訂版』収録教材の筆者の大学入試出典一覧(一部)

- 原 研哉 「日本のデザイン——美意識が作る未来」——福岡教育大
- 中島 敦 「狐憑」——福井県立大
「文字渦」——防衛医科大学
- 高階秀爾 「日本人にとって美しさとは何か」——三重県立看護大
- 今福隆太 「宮沢賢治 デクノボーの叢知」——早稲田大・九州大
- 藤原辰史 「食べること考えること」——亜細亜大・津田塾大
「分解の哲学」——学習院大・名城大
「分解の哲学」——中央大
「他炊論」——早稲田大
- 夏目漱石 「虚子著『鶏頭』序」——上智大
「子規の画」——東京大
「三四郎」——三重大
- 小川洋子 「ことり」——東北大・聖心女子大
- 川上未映子 「夏物語」——大阪大
- 寺田寅彦 「化け物の進化」——成城大
「蓄音機」——成蹊大
「案内者」——立教大
- 加藤周一 「明治初期の文体」——早稲田大
「日本文学史序説」——上智大
「科学の方法と文学の擁護」——九州大
- 多和田葉子 「雪の練習生」——神戸親和大
「Hirukoは語る」——琉球大
「ゴットハルト鉄道」——大阪大
- 三島由紀夫 「西洋の庭園と日本の庭園——『仙洞御所』序文」——明治学院大
「陶酔について」——千葉大
「いかにして永生を？」——宇都宮大
「廃墟について」——愛知大
「金閣寺」——福井県立大
- 谷崎潤一郎 「陰翳礼讃」——関東学院大
- 森鷗外 「半日」——宮崎大
- 渡辺一夫 「ある神学者の話」——大分大

*青字は教科書本文と同一箇所、緑字は教科書本文と同一出典 ※「」は書名、「」は文章タイトル

指導資料一覧

評価問題・教科書紙面 PDF・実践用ワークシート・
図解穴埋めワークシート・ルブリック評価シートなど、さらに充実しました。

指導資料各種	論理国語 改訂版 (論国 143-901)	文学国語 改訂版 (文国 143-901)	古典探究 改訂版 (古探 143-901 / 143-902)
指導書『学習指導の研究』(A5版)	5分冊 + CD-ROM1枚 + PDF版	5分冊 + CD-ROM1枚 + PDF版	6分冊 + CD-ROM1枚 + PDF版
教科書本文データ	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word
訓点付き漢文原文データ	—	—	一太郎・Word・PDF
古文品詞分解	—	—	一太郎・Word
漢文書き下し文	—	—	一太郎・Word
古文・漢文現代語訳	—	—	一太郎・Word
〈テスト・評価問題〉基本問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
〈テスト・評価問題〉標準問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
〈テスト・評価問題〉発展問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
〈テスト・プリント〉小テスト問題	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
漢文編集システム	—	—	一太郎・Word
教科書紙面 PDF	PDF	PDF	PDF
課題ノートデータ	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word
授業用プリント	一太郎・Word	一太郎・Word	一太郎・Word
実践用ワークシート	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF	一太郎・Word・PDF
図解穴埋めワークシート	PDF	—	—
授業用図版素材	PDF	PDF	PDF
古文・漢文本文スライドデータ	—	—	PowerPoint
ルブリック評価シート	Excel	Excel	Excel
学習 link 集	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ	デジタル・コンテンツ
PDF 指導書分冊『学習指導の研究』PDF版	PDF	PDF	PDF

【別売】「文学国語 改訂版」朗読 CD 3枚組	—	対応	—
【別売】「古典探究 改訂版」朗読 CD 2枚組	—	—	対応
【別売】指導書分冊『学習指導の研究』PDF ファイル版(『学習指導の研究』より分売)	CD-ROM1枚	CD-ROM1枚	CD-ROM1枚

※指導資料関連の一部を破損・紛失した場合は、交換することが可能です。営業部までお問い合わせください。

指導書『学習指導の研究』の内容 全体を次の項目で構成しています。

- 単元の解説
単元のねらい・教材編集の意図
- 教材のねらい
教材ごとに見開きで指導のポイントを解説
- 学習指導の展開例
教材の指導計画案(配当時間)・指導目標・学習活動・指導上の留意点
- 出典
- 著者(作者)解説
- 要旨(主題)
100字・200字の二種
- 意味段落の要旨
教材の全体を意味段落による表で示し、各段落の内容を要約
- 全体の構成図

- 教材本文の流れをチャート形式で図解(※現代文教材のみ)
- 叙述と注解
教材本文の語句の解説や、文脈上での叙述の解釈
- 学習のポイント
授業前のトピックの紹介や、各段落の要点を整理(※現代文教材のみ)
- 発問例/脚問の解答
教科書収録の脚問と、発問例・解答。各問には難易度を表示
- 板書例
授業の要所要所で示す板書例
- キーワード
本文理解に重要なキーワードを解説(※現代文教材のみ)
- 作品解説(鑑賞)

- 参考資料
 - 参考文献
 - 手引きの解答例・指導上の留意点
 - オンライン指導資料
- 古文・漢文教材には、このほかに以下の項目があります。
- 品詞分解 ※古文編
 - 総ルビ付き本文 ※古文編
 - 総ルビ付き訓読(書き下し文) ※漢文編
 - 現代語訳 ※古文編・漢文編

オンライン指導資料

指導書『学習指導の研究』を通して、下記のオンライン指導資料が利用できます。

▶ 詳細は「指導資料パンフレット」P40-43をご覧ください。

漢文編集システム

漢文の問題作成も手軽にできます。

▶ 詳細は「指導資料パンフレット」P41をご覧ください。

授業をサポートする周辺教材のご案内

朗読CD 指導資料

準備中

『文学国語 改訂版』
朗読CD 2枚組

準備中

『古典探究 改訂版(古文編・漢文編)』
朗読CD 2枚組

準拠課題ノート一覧 学校専売品

準備中

国143-901
論理国語 改訂版 課題ノート
B5判/別冊解答付/書き込み式/予160頁

準備中

国143-901
文学国語 改訂版 課題ノート
B5判/別冊解答付/書き込み式/予144頁

準備中

探143-901/143-902
古典探究 改訂版
[古文編・漢文編] 課題ノート
B5判/別冊解答付/書き込み式/予240頁

指導者用デジタル教科書

準備中

論理国語 改訂版
指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)

論理国語 改訂版
指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID

準備中

文学国語 改訂版
指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)

文学国語 改訂版
指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID

準備中

古典探究 改訂版 [古文編・漢文編]
指導者用デジタル教科書(DVD-ROM版)

古典探究 改訂版 [古文編・漢文編]
指導者用デジタル教科書(クラウド版)
*1ライセンスあたり 10 ID

補助教材集

ちくま文学講読〈初級編〉

監修 東京大学 安藤 宏 日本大学 紅野謙介
A5判/128頁/本体560円+税/ISBN 978-4-480-91091-2
文学の世界を広げる準教科書。
1年生でもっと文学的文章を生徒に触れさせたい先生方に!
指導用資料(冊子) 評価問題・本文データ(CD-ROM)付
*指導資料も完備(別売)*学校専売品
A5判/368頁/本体7,000円+税/ISBN 978-4-480-90584-0

ちくま文学講読〈上級編〉

監修 東京大学 安藤 宏 日本大学 紅野謙介
A5判/256頁/本体900円+税/ISBN 978-4-480-91740-9
文学の世界を深める準教科書。
2・3年生で必須の文学的文章を扱いたい先生方に!
指導用資料(冊子) 評価問題・本文データ(CD-ROM)付
*指導資料も完備(別売)*学校専売品
A5判/792頁/本体9,000円+税/ISBN 978-4-480-91744-7

ちくま古典講読

監修 青山学院大学 高田祐彦 山形大学 三上英司
定番の古文・漢文教材を精選した準教科書。
2・3年生の2単位古典科目に! 2026年秋刊行予定

デジタル教科書関連書

次の副読本は、筑摩書房版
デジタル教科書に関連づけられています。

詳説 古典文法 改訂版 井島正博 編著 伊藤博美・仲島ひとみ 著
*指導資料・補充問題データCD-ROM A5判/別冊解答付/176頁/
本体680円+税/ISBN 978-4-480-91737-9 学校専売品

詳説 古典文法 改訂版 準拠 学習ノート
『詳説古典文法 改訂s版』編集委員会 編著 B5判/別冊解答付/64頁/
本体500円+税/ISBN 978-4-480-91092-9 学校専売品

詳説 漢文句法 改訂版 三上英司 編著 石村貴博・大橋賢一・泊 功 著
*評価問題データCD-ROM A5判/別冊解答付/224頁/
本体700円+税/ISBN 978-4-480-91738-6 学校専売品

詳説 漢文句法 改訂版 準拠 学習ノート 北島大悟 編著
B5判/別冊解答付/48頁/
本体500円+税/ISBN 978-4-480-91093-6 学校専売品

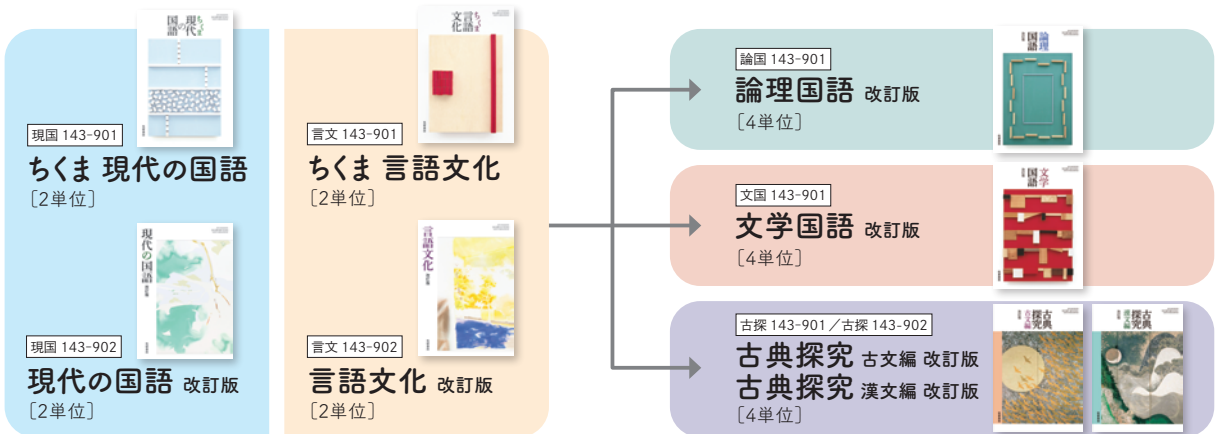
10のグループで覚える 読解 古文単語343 村田正純・吉田 光 著
*自動問題作成システム(Web版)
B6変型判/256頁/本体900円+税/ISBN 978-4-480-91735-5

筑摩書房版 教科書の展開例

1年次

2年次

3年次



教科書名	教科書調査の観点					
	①知識・技能	(1)内容 ②思考力・判断力・表現力	③言語活動	(2)構成・分量	(3)表記・表現および使用上の便宜	(4)その他
論理国語 改訂版 (論国 143-901)	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項について理解を深めたり、自らの考えを広げたりする評論教材や学習の手引きが充実している。 (2)情報の扱い方について理解を深め、自ら情報を利用して思考を深めるための評論教材や言語活動が充実している。 (3)新たな考えの構築に資する読書について、教材ごとに著者の主な作品が紹介されており、十分配慮されている。	B 書くこと 論理的な文章や実用的な文章を書くことの資質・能力に資する教材が充実しており、十分配慮されている。 C 読むこと 論理的な文章や実用的な文章について、根本から問い直し、多様な視点を持ち、視野を広げ、論理的思考を育む教材が充実している。	「実践」や教材ごとの手引きで主体的対話的で深い学びを実践する数多くの言語活動例が示され、十分配慮されている。	・教材収録本数が多く、分野も多岐にわたり、教材選択の幅が広い。 ・単元ごとに「単元の目標」が示され、単元を通しての学習の見通しが立つように工夫されている。 ・教材ごとに「視点」が示されて、教材を通して学習の見通しが立つように工夫されている。 ・教材ごとに「課題」と「言語活動」が示され、身につける資質・能力を明確である。	・脚注や地図・図版などが適宜掲げられており学習の便宜が図られている。 ・手引きや脚問によって理解を深められるよう配慮されている。	・意欲的に発掘された新教材が多く掲載されていて清新な印象を受けた。 ・評論読解に役立つコラムがよく整理されている。
文学国語 改訂版 (文国 143-901)	(1)言葉の特徴や働きについて理解を深める近代以降の文学的文章と、学習の手引きが充実している。 (2)我が国の言語活動に関する知識・技能が身につく文学的文章と、言語活動が充実している。 (3)人間、社会、自然などの対するもの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めること。	B 書くこと 文学的文章を書くことの資質・能力に資する教材が充実しており、十分配慮されている。 C 読むこと 文学的文章について、作品をよまえて考察を深めるための教材が充実している。	「実践」や教材ごとの手引きで主体的対話的で深い学びを実践する数多くの言語活動例が示され、十分配慮されている。	・教材収録本数が多く、作品や作者のバリエーションも多岐にわたり、教材選択の幅が広い。 ・単元ごとに「単元の目標」が示され、単元を通しての学習の見通しが立つように工夫されている。 ・教材ごとに「視点」が示されて、教材を通して学習の見通しが立つように工夫されている。 ・教材ごとに「理解」と「言語活動」が示され、身につける資質・能力を明確である。	・脚注や地図・図版などが適宜掲げられており学習の便宜が図られている。 ・手引きや脚問によって理解を深められるよう配慮されている。	・意欲的に発掘された新教材が多く掲載されていて清新な印象を受けた。 ・教材の理解に役立つコラムがよく整理されている。
古典探究 改訂版 (古探 143-901 / 古探 143-902)	(1)古典の作品における言葉の特徴や用いられ方について理解を深めたり、自らの考えを広げたりする古典教材や学習の手引きが充実している。 (2)古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や中国など外国の文化との関係について理解を深めたり、文語や訓読のまきまりについて理解を深めたり、現代に至る言葉の変化や影響について理解を深めるための古典教材が充実している。 (3)先人のもの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のもの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書について、十分配慮されている。	C 読むこと 古文・漢文について、的確に捉え、理解を深めるための教材が充実している。	「実践」や教材ごとの手引きで主体的対話的で深い学びを実践する数多くの言語活動例が示され、十分配慮されている。	・教材収録本数が多く、作品や作者のバリエーションも多岐にわたり、教材選択の幅が広い。 ・単元ごとに「単元の目標」が示され、単元を通しての学習の見通しが立つように工夫されている。 ・教材ごとに「視点」が示されて、教材を通して学習の見通しが立つように工夫されている。 ・教材ごとに「司会」と「表現」が示され、身につける資質・能力を明確である。	・脚注や系図・地図、手引きや時代区分、脚問などが適宜掲げられており効果的である。 特に絵巻物、絵画などのカラー図版が時代・風俗を理解する際に有効である。	・巻末付録の「古語の理解」「漢語の理解」、年表などが授業に役立ち、評価できる。

「教科書調査の観点」のほか、シラバスなどの資料は、筑摩書房の教科書サイト「ちくまの教科書」からダウンロードできます。
<https://www.chikumashobo.co.jp/kyoukasho/>

筑摩書房



ちくましょぼう
筑摩書房

〒111-8755 東京都台東区蔵前 2-5-3

●ご注文・見本の請求 営業部 / tel. 03(5687)2680

●内容に関するお問い合わせ 編集部 / tel. 03(5687)2674